

スペース・イオ

Ⅲ 今年度入所児童生徒の現状と分析

1 入所児童生徒内訳

本年度前期入所は42名（継続16名・新規26名）、後期入所は20名、その後の体験入所13名、退所6名となっている。データは2月24日現在の利用者数81人で作成した。

(1) 学年・男女別

	学 年					合計（人）
	小6	中1	中2	中3	中卒生	
男	1	4	13	19	3	40
女	0	3	18	20	0	41
計（人）	1	7	31	39	3	81

- ① 中学生の割合が95%を占める。
- ② 男女ほぼ同数である。
- ③ 学年別では中3年生の割合が最も高く48%を占める。

(2) タイプ別

タイプ別	小学生	中学生	中卒者	計(人)	形 態
タイプ1	1	54	1	56	通所のみ
タイプ2	0	17	1	18	通所+IT等学習
タイプ3	0	6	1	7	IT等学習のみ
計（人）	1	77	3	81	

- ① タイプ別の割合は、タイプ1が70%、タイプ2が21%、タイプ3が9%である。
- ② IT等学習を活用している生徒の内、96%が「WEBで宿題」を利用している。

※ 平成22年度比で、タイプ1が15ポイント増え、タイプ3が24ポイント減少した

(3) 地 域 別

	県 北		中 央		県 南		計	
	人数	学校数	人数	学校数	人数	学校数	人数	学校数
小 学 生	0		1	1	0	0	1	1
中 学 生	2	2	73	23	2	1	77	26
中 卒 生	0		3		0		3	
計	2	2	77	24	2	1	81	27

- ①地区別の生徒数の割合は、中央が95%をしめる。
- ② 地区別の学校数の割合は、中央93%となる。

(4) 入所児童生徒の推移

	平成17年度		平成18年度		平成19年度		平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度	
	人数	校数												
小学校	4	4	5	5	6	5	5	5	0	0	0	0	1	1
中学校	51		63		82		83		73		66		77	
中卒者	3	31	11	33	6	34	7	34	8	30	4	28	3	26
計	58	35	79	38	94	39	95	39	81	30	70	28	81	27

2 入所児童生徒の状況と分析

(1) 不登校のきっかけ

次の表は不登校のきっかけ等について入所時の面接や在籍校からの資料をもとにまとめた。分類は次の通りである。学校生活（①友人・教師との関係、②学業不振、③部活動・転入学・進級等の不適応） 家庭生活（④環境の変化、⑤親子関係、⑥不和等）

本人（病気等） その他 不明

きっかけ	小学生	中学生	中卒生	計(人)
学校生活①友人・教師との関係	1	31	0	32
学校生活②学業不振	0	5	0	5
学校生活③部活動・転入学・進級等の不適応	0	9	0	9
家庭生活	0	5	0	5
本人(病気等)	0	25	3	28
その他	0	0	0	0
不明	0	2	0	2
計(人)	1	77	3	81

①「学校生活」がきっかけとなっている場合が57%を占めている。

②「本人」は35%で、「集団が苦手」「腹痛」「心臓病」などの他に、受診し発達障害、またはその傾向、その疑いがあるといわれた生徒が5名含まれる。

③「不明」は本人・保護者・在籍校ともにわからないと答えている。

※ 平成22年度との比較では、「本人（病気等）」が12ポイントあがっている。

(2) 不登校の期間

次の表は、スペース・イオに在籍する児童生徒の不登校の期間をまとめたものである。

期間\学年 (年以上～年未満)	小学生	中学生			中卒者	計(人)
	6	1	2	3		
0～1	1	6	28	23	2	60
1～2			3	11		14
2～3				4		4
3～4					1	1
4～5			1			1
5～6				1		1
計(人)	1	6	32	39	3	81

① 不登校期間が1年未満の生徒の割合が高く74%を占める。

② 不登校期間が3年以上の長期にわたる生徒の割合は4%である。

※ 平成22年度比で1年未満の児童生徒が多い。最長の生徒は今年度登校を始めた。

(3) 月別学習のべ人数(2月末現在)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	計
延べ人数	247	448	609	431	321	572	652	648	455	497	690	5570
(内IT等)	78	125	186	134	130	219	215	196	193	174	195	1845
1日平均	13	24	32	23	15	29	33	32	24	26	34	26

① 4月・5月に学習した生徒は、平成22年度からの継続と新規の一部である。

② 後期の入所申請生徒の体験学習は6月中旬から開始している。

IV 学習支援の実際

1 学習支援プログラム

(1) 自学自習

新しい学習環境への適応や、学習習慣の確立、一人で学習を進める力の育成を目的に行った。自学自習の場合も、学習指導員等が机間指導をして質問等に対応した。自学自習した内容は個人ファイルに記録し、進捗状況を把握した。記録は出席状況として一ヶ月ごとに在籍校へ報告した。下表は任意の一週間の自学自習時間をまとめたものである。

期 間	自学自習のべ人数	1時間あたりの人数	主な学習内容
6/13～6/17	9 6	5	持参問題集、新出単語、基本構文、漢字等の書き取りや意味調べ等
11/28～12/2	1 1 5	6	

(2) 個別学習

生徒の希望に寄り添いながら、個別指導を行った。入所児童生徒の増加と、個別学習の希望の増加に応えるため、後期から個別学習の時間を組み入れ、週当たり8時間増やした。個別ファイルに記録された学習内容から、進捗を確認し、さらに生徒に確認し、学習の継続に生かしている。記録は出席状況として一ヶ月ごとに在籍校へ報告した。

(3) SB5 (スタディベーシック5)

毎日2、3時間目に当たる時間に、秋田明德館高等学校の小教室を利用して、少人数の授業形式で実施した。高校生の受けている授業の気配を感じながら、学校により近い雰囲気での学習をすすめることができるため、ステップアップへ向けて、効果的な刺激の一つであると考えられる。次表は、各教科の実施状況と課題をまとめたものである。

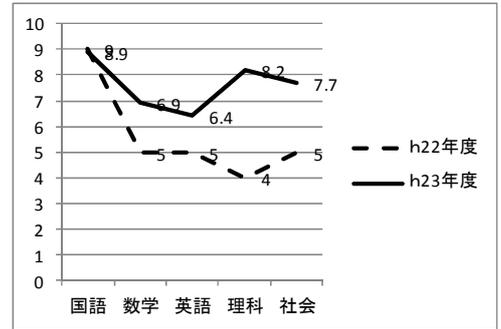
教科	① 題材や単元学習内容や進め方等 ②実施状況 ③成果等
国語	<p>1 実施状況と課題</p> <p>①題材や単元 年間の指導計画は各領域を、1、2年の内容を中心に網羅できるよう組み立てた。三年生の生徒でも、必要と思われる単元は選んで出席しており、基礎学力の定着に役だったと考えられる。</p> <p>②実施状況 計画56回(2/29)まで 43回(12月末現在)268人平均6.2人 イオの生徒は他との関わりが苦手あるいは希薄な生徒が多いが他からの評価には敏感である。前時に書いた作文を全員分活字にし、次時には他の生徒の作品を読み、鑑賞文を書く授業を試みた。自作へ他からの反応があったことが刺激になったようだ。</p> <p>③課題 継続して出席できている生徒は、確実に力が付いてきていることが確認できたが、時々しか出席できない生徒も多く、来年度も「個別学習」や、「自学」での学習の進め方うまくつなげて効果を上げ達成感をもたせてやりたいものである。</p>
社会	<p>1 実施状況と課題</p> <p>①題材や単元 1、2年の学習内容である地理、歴史領域を中心に学習計画を立てた。毎時間プリントを1枚用意して、学習した内容を確認できるようにした。さらに、自己評価のため記録用紙を準備し、毎時間「勉強になったこと」を中心に書くようにして学習内容の定着を図った。</p> <p>②実施状況 計画52回(3/2)まで38回(12月末現在)206人 平均5.4人 学習効果を上げるために、教科書の写真や絵を見たり、地球儀や拡大された写真・カードを用いたりして、学習内容が具体的にイメージできるように工夫した。戦国時代に詳しい生徒や、EUやイギリス通貨のことなどに詳しい生徒がいて、他の生徒に話して聞かせる場面も見られた。</p>

	<p>③課題 教科書の漢字が読める、東北6県を言える、あるいは地図帳から探せる、などの基礎的な力が不足しているように感じた。個別学習や自学で社会科を学習する生徒が増加しているので、配布してある「社会科の個別学習・自学の進め方」を参考にして基礎力アップに取り組むようにしていきたい。</p>
数学	<p>1 実施状況と課題</p> <p>① 題材や単元 計算領域は個に応じ、自学や個別学習、ドリル学習で各々習得することにし、授業としては夏休み前の1時間と最後の総復習として1・2年の「数と計算」を6時間設定した。1・2年の図形領域を中心に学習したが少し精選し、その分今年からは関数「比例と反比例」「1次関数」も組み入れた。</p> <p>② 実施状況 平均生徒数4.8人。2年の図形領域の内容から生徒数は少し増えてきた。これは学校の進度と重なったことと友人とのよい関係が影響していると思われる。1・2年を対象にした授業であるが、3年生でも理解を確実にするためにほぼ毎回出席する生徒もいる。新しい仲間に気軽に声をかけてくれるなど温かい雰囲気作りをしてくれる生徒がいることで、課題に対して学年に関係なく教え合ったり、黒板で自分の考えを発表したりすることができ、「分かる」、「楽しい」時間をもつことができた。</p> <p>③ 課題 積み重ねの教科であり内容を定着させることで達成感を味わい、次への意欲につながる。毎回出席できるとそれなりに積み重ねができていくが、体調、関わりや教科への苦手意識のため継続できない生徒も多く、わかることの楽しさを感じ、意欲を向上させることは難しい。今後も興味ある課題設定や指導の工夫に努めていきたい。</p>
理科	<p>1. 実施状況と課題</p> <p>① 題材や単元 1分野（化学・物理）は金曜日、2分野（生物・地学）は月曜日とし、二人で担当している。一年間ですべての単元を終了するようにしている。特に実験や観察を重視して、時には実験室を利用して、教科書にある実験等は出来るだけこなせるように努めている。</p> <p>② 実施状況 計画 57回（12月末現在 42回 243人 平均 5.8人） 毎回10分位の実験を取り入れて、理科への興味を高め、新しい発見と理解できたときの楽しさが持てるような授業をめざしている。また、21回のスタディワークの実験ともリンクさせながら取り組んでいる。プリント2枚（問題と解答）を渡し、5問のうち2問は解くようにしている。</p> <p>③ 課題 自学自習や個別学習でワークの問題を解いている生徒もいるが、しっかりと理解できているかを確認するための時間を持ってない。これからは、プリントの回収等も考える必要がある。出席の継続性を保てないのが残念であるが、お互いが声を掛け合い出席するようになっているので、非常によい傾向である。</p>
英語	<p>220人 49回1月25日現在平均4.5人 2～7人ぐらいで変動はあるが、例年より活気がある。参加生徒の英語力に差がある。よく理解し、正確に使いこなす生徒（英検4級程度）数人。0からスタートしなければならない3学年の生徒2～3人。途中から学習が進まなかったり、自信を持てなかったりした生徒数人。入れ替わり立ち代りの参加で、あまり持続してない。</p> <p>ウォームアップでは黒板の単語クイズに生徒が教室に入り次第一問ずつ答えて席に着く。授業のコアとなる基本文を覚えるために、T-S(教師・生徒) S-S間で問答を繰り返しているうちに定着が見られた。習熟度を確認するために final check questions を使用した時が効果的だった。</p> <p>また短い会話表現を授業におりませ、相手に相槌を打ったり、コメントしたり、黙ってないで何か一言言い添えるよう励ましてコミュニケーションスキルのアップを試みた。生徒たちのロールプレイでは笑いもおこり、場が和んだ。</p>

常にともなう英語力の差を、グループの雰囲気はうまくカバーしてくれる。生徒たちが時に笑いをまじえながら提供する題材に対応していくことで、提供する側も助けられた。歌やゲーム、絵、クイズなども取り組みを容易にする一助となった。参加が持続することにつながるのだろうか。

右グラフは、昨年度と今年度の参加率（%）を表したものである。

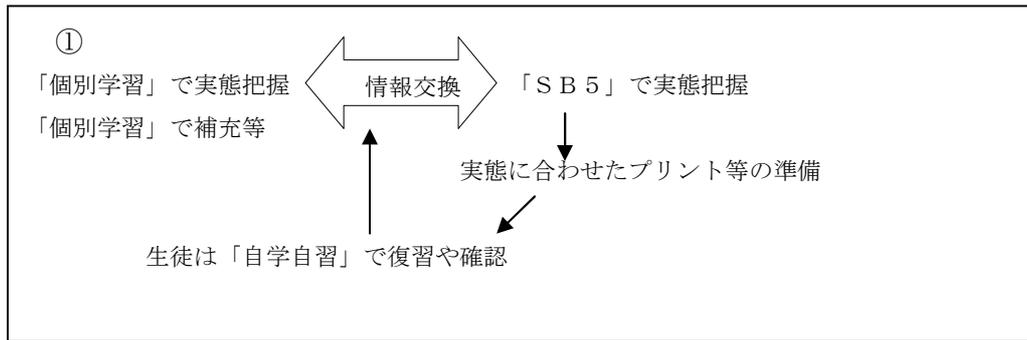
今年度の生徒は集団の学習活動に誘い合ったり、新しく入所した生徒に声を掛け合ったりして参加している姿が見られ、参加率の上昇の一因と考えられる。



各教科から出された課題をもとに、

- ①個別学習とSB5、さらに自学自習と運動させて学習に取り組ませる
- ②学習について、子どもが自分の現在位置を知ること、見通しを持つこと、できたことを確認できること、子どもと指導者がその情報を共通してもつこと

①②から、学習意欲の向上と定着が図られるのではないかと考え次のように取り組んだ。特に国語や数学などの系統的な学習においては、教科の特性もあり、個別学習とSB5との運動が比較的行いやすかったと思われる。生徒は個別学習とSB5の学習を受けて、自学自習も効率的に行うことができた。



②チェック表の作成例

イオプリントの取り組み等から現在位置を知る。担当と相談をして見通しをたてる。

氏名			
予定	チェック	章・節・項	日付、学習状況、連絡等
		2 いろいろな作図	
1/17	済	1 基本の作図	1/19 1月中に1年の内容を終了させたい。
1/25		2 作図の利用	
		6章 空間図形	
1/27		1 いろいろな立体	
		2 位置関係	
		3 投影図	
1/30		4 展開図	

(4) 中3トライアル

参加生徒のほとんどが中学3年生、中卒生であり、長期休業中も平均6人の参加があり、昨年度より2人程度増加している。(1.23現在)下は今年度の実施状況と課題をまとめたものである。

	国 語	数 学	英 語
実施回数	1 8	1 7	1 7
参加延べ人数	1 1 3	9 9	1 0 7
1回当たりの平均人数	6	6	6
題材や単元	<p>中学三年生に対応する学習プログラムとして求められる各学年、各領域における基礎力の定着を確認する内容で学習計画を立てている。今年度は中学二年生の出席も多かったが基礎からの学びで応用も難易度が高くなかった所以对応できた。</p>	<p>1・2年の各単元ごとに基本と応用、過去問に取り組んだ。昨年は他の単元と複合していた確率を重視して1時間とった。10月には昨年の実力テストを行い、具体的な努力目標を確認した。冬休み後は3年の単元、そして実践問題(入試¹番問題、規則性の問題等)を行った。</p>	<p>全21回のうち前期7回までは肯定文疑問文など英文の基本、過去形未来形といった時制や動詞の用法を中心に1・2年の復習をし、後半は受動態文、現在完了形など3年生の学習内容のうち基本事項に絞って取り上げた。12月以降は長文も加えて英文解釈力と表現力をアップするように計画している。例文は日常的事柄をとりあげるとなるべく生徒が身近に感じられるように心がけた。</p>
実施状況	<p>基礎知識の定着が不十分な生徒が多いため特に文法、古典は基礎に何度も立ち返って学習を進めた。時間を区切った学習に慣れていない生徒も多いので問題内容と向き合う際には時間配分を念頭に取り組む訓練が必要であることを押さえた。</p>	<p>出席生徒数は平均6人で、その内4人はほぼ毎回出席。2年生の出席も多かった。基本から段階的に問題を準備し、問題量や選択で個に対応した。主に計算領域では、早く終了した生徒に教えてもらうことで、分かったという強い満足感をもつと共に友人関係が深まり、また教える方は自信と確実な理解につながった。3年の単元については、自学等の学習が少ないため、基本的な学習をした。</p>	<p>0から始める中3生には他の教師の助けを得てマン・ツー・マンで対応した。ほぼ毎回持続して参加する生徒が中心となっているが、1年の途中、2年の途中までと学習進度はまちまちなので基本事項の習得に終始した。一方で、英語力が充分についている生徒は、準備した発展問題や長文の読解問題にも取り組んだ。</p>
成果と課題	<p>卒業年度になって初めて学習に向き合い始める生徒も多く、短時間で効果的な学習が求められる。基礎力がないと難しいが、個々に合った学びのツボがあり、見つけてやれば集中力を発揮する。中三ト</p>	<p>授業を受ける生徒を考慮して問題の種類や説明の時間を加減しているが、予定通りにならないことが多く、準備したプリントの内容では対応できないことがある。また、基礎学力がない生徒にはほぼ個別指導となり、学習カウンセラー</p>	<p>今年は例年より参加が増えた。他の生徒の参加に励まされて参加した生徒も見られた。雰囲気は明るい。わからなければ他の生徒と教え合ったり、たとえ間違っても笑いがおこったり、間違いから学ん</p>

	<p>ライアルも個別学習との関わりを重視し進めたいものだ。</p>	<p>の先生や教育実習生の方に協力してもらっているが、援助がないと他の生徒への指導がなかなかできなくなる。週1回のまとめの授業であり、進路達成のため、学力の定着には家庭学習や自学の継続が必要である。</p>	<p>だりするので場が和んでいる。明るい雰囲気学習態度によく影響している。それは ①feed back—理解できなかった点や曖昧なところをもう一度やってみようとする②explore—得た情報をもとに広げて考えたり、別の場面で使ってみたりする。といった生徒たちの前向きの姿勢にあらわれている。より多くの生徒たちがこのような意識をもって学習を自律的に進めていけるようにするにはどうすればよいか。</p>
--	-----------------------------------	---	---

(5) 読書

1時間目に本に向かう時間と場所を確保した。毎回平均4人程度の参加がある。継続的な読書は知的好奇心の向上とともにその後の学びを支えるものになっている。

(6) スキルアップ

通所している子どものうち5名が参加した。検定学習進行表に、取り組んだ日付を記入し、目標をもって計画的に学習を進め、より上級の合格を目指して励む姿が見られた。漢字能力検定2名、英語検定3名、歴史検定1名、ITパスポート1名が、在籍校および一般会場で受験した。

2 集団適応支援プログラム

(1) ソーシャルスキルトレーニング

ソーシャルスキルトレーニングは、学習指導カウンセラーが木曜日の4時間目（45分間）に、エンカウンターと交互に隔週で実施している。自由参加のため毎回参加人数は異なり、5～11名の人数が参加している。グループワークや作業課題、ゲームなどを通して、それぞれの参加者が楽しみながらソーシャルスキルを身につけていけるよう工夫した。また、よりよい人間関係を築くためのプログラムの他に、心理教育や表現療法なども取り入れて行った。

今年度は秋田大学大学院心理教育実践専修の学生9名が、不登校生徒への理解を深め、生徒との関わり方を学ぶという目的で実習を行った。実習は、6月～12月の間に1人3日間の日程で行った。学生は、学習指導カウンセラーの補助としてソーシャルスキルトレーニングにも参加した。

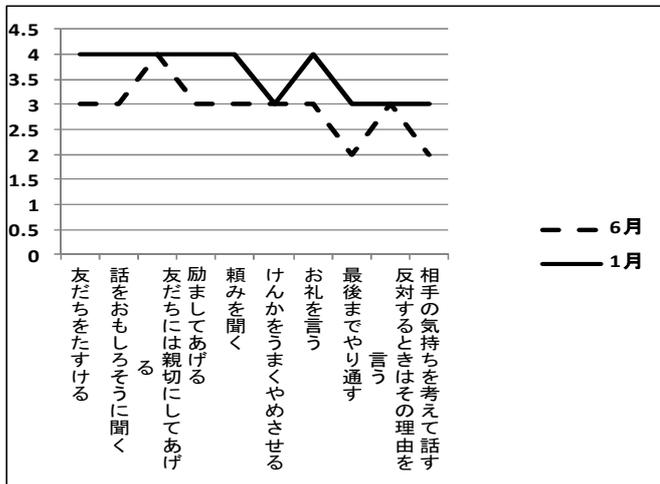
(2) エンカウンター

自由参加であるため毎回参加人数は異なるが、平均8人の参加があった。オープンなスペースで行っているため、直接参加しない子どももエクササイズの様子を見たり聞いたりしている姿が見られた。実施エクササイズと参加人数は【資料3】のとおりである。次の表はSST、エンカウンターに比較的継続して参加した生徒2名を抽出し、社会的スキル*の変容を調べた結

果である。得点が高いほどソーシャルスキルが身についていると言える。*出典「実践ソーシャルスキル教育」図書文化「中学生用社会的スキル尺度」使用

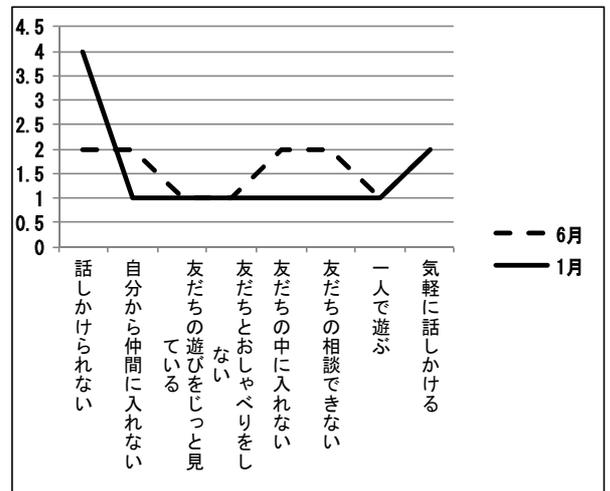
	6月	1月
生徒A	72	89
生徒B	72	83

【生徒A】 向社会的スキルの変化



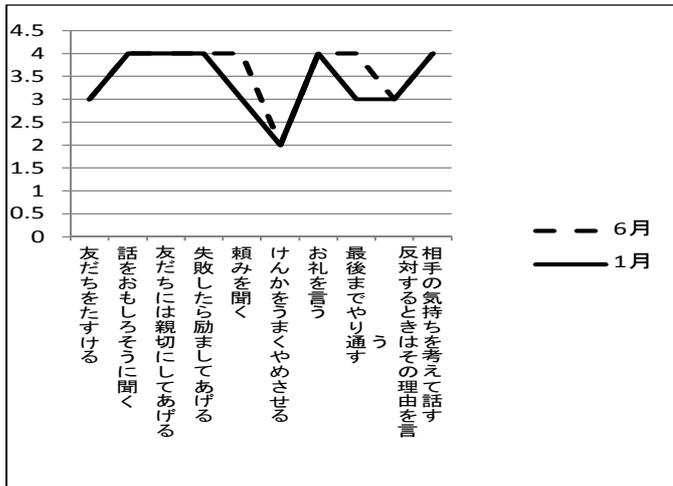
ほとんどの項目で上昇している。

引っ込み思案行動の変化



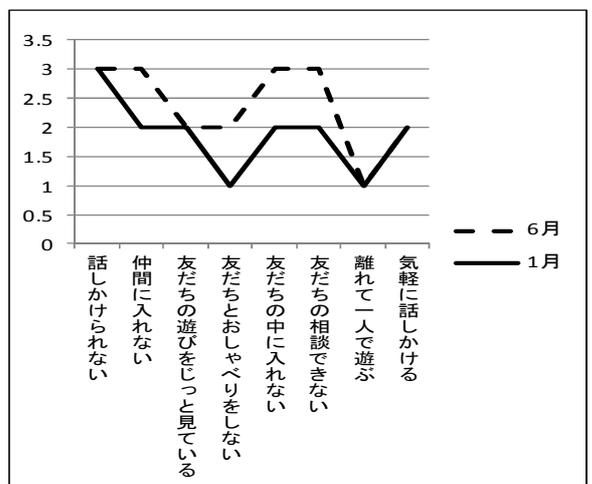
引っ込み思案行動が減少している。

【生徒B】 向社会的スキルの変化



今年度は、来所する同性同学年の生徒が極端に減り、親しく会話のできる機会が減ったことが、下降項目の要因の一つではないかと考えられる。

引っ込み思案行動の変化



引っ込み思案行動が減少している。

参加できる生徒は毎回違う場合もあるが、「社会的スキル尺度」を活用し、年度内比較を試み、スキルの向上に努めたいと考える。

(3) スタディワーク

不登校のため理科の実験や観察をほとんど経験していない生徒が多い。また同年齢の子もたちと比較して野外での体験も乏しい。そのため平成17年度から科学遊び・もの作り・実験や観察を通して、理科学習の楽しさを体験することをねらいとした「スタディワーク」を実施

した。平成18年度からは地理や歴史などの社会的な内容もプラスして、ミニ校外学習的な要素を盛り込んだ。実際に見学し、自分の目で確認することを通して、広い視野を養ったり知識を獲得したりした。

- ① 29回実施する予定である。23回目(1/17)までは、延べ262人の参加であり、昨年度の2倍強の参加人数となっている。毎回10人前後の生徒たちの参加があった。
- ② 理科の実験では、教師からのアドバイスや支援を受けたり、また生徒同士協力し合ったり関わりを楽しんだりしながら取り組む姿が見られた。
社会科では、近くの佐竹史料館や日本銀行秋田支店などを訪れ、実際の見学を通して理解を深めた。往復の道のりを歩いて行ったが、知り合い同士楽しく話したり新しく友達ができたりする良い機会となった。
- ③ スタディワークの学習内容に興味をもち、積極的に参加する生徒が目だった。「振り返り学習記録カード」を通して、自己評価や一言感想の記録にも取り寄せた。これは評価の材料として活用のため在籍校へ提出を促している。本年度の学習内容と参加人数は【資料4】のとおりである。

(4) カルチャー&アドベンチャー

集団活動や体験的な活動を通して毎週金曜日の午後、①コミュニケーション能力の向上②課題解決能力の向上③豊かな感性の育成④健康の保持増進を図ることをおもなねらいとして年間計画を作成(資料4)実施した。昨年度同様、NPO法人「不登校を考える親の会あきた」と連携した活動や行事に向けた活動、秋田市環境企画課、国際交流協会、本校定時制・通信制職員などの協力を得ながら、多様な活動を展開している。体験的な活動の他、校外学習や本校の文化祭「明德祭」への展示参加、「クリスマス音楽会」等の事前学習の時間としても生徒に定着してきている。昨年度は、5年間の取組をまとめその成果と課題をもとに、今年度はタイプⅢの生徒等が無理なく参加できるような活動の設定や午後にスポーツの時間を増やす等カルチャー&アドベンチャーの大幅な見直しと改善を図り、新たに以下のような活動を取り入れて実施した。

○ 「イオクラブ」の実施

集団での体験活動が中心のカルチャー&アドベンチャーは、集団活動やゲームなど他者との交流が中心で、比較的元気な生徒に参加が限定されたプログラムである。元々集団活動や対人関係を苦手としている生徒にとっては参加しにくいプログラムであると推察される。一人一人がもっと気軽にイオに通所できるよう、自分の趣味や特技などにじっくりと取り組むことができる活動として「イオクラブ」を設定し、「手芸」「ギター」「イラスト」「将棋」の4つのグループで活動した。全体の参加平均人数は13人、イオクラブのみの参加平均人数は15.8人。内容と活動は以下の通りである。

「手芸」：技能的に難易度別に3つの題材を準備し、それぞれ3時間での完成をめざした。全くの初心者だけでなく小中学校での学習を通して、ある程度技能が身につけている生徒もいることから、題材や必要時間などの選択の幅を増やしていきたい。

「将棋」：経験のある職員や生徒と活動を楽しんだ。時間がかかり、時間内に終了できないまま次の週に持ち越しになるが、休んでしまうと続きができなくなってしまうこともあった。

「ギター」：12月実施のクリスマス音楽会に向けてギター演奏に取り組んだ。昨年度までは音楽リラクゼーションのみで取り組んでいたため、当日に向けて朝や放課後練習の時間をかなり要したが、4月から見通しを持ってこの時間にも取り組めたことで余裕を持って指導することができた。

「イラスト」：入所生にはイラストを趣味としている生徒や美術部に所属している生徒も多いが、イオの時間割には美術の時間がなく職員からも美術指導の必要性が指摘されていた。美術指導を行うことができる職員はいないが、NPO「不登校を考える親の会」の美術短期大学出身者スタッフ2名の協力を仰ぎ、講師として指導してもらった。イラストの描き方の相談にのってもらった

り、描き方の指導をしてもらったりと年齢の近い職員からのアドバイスは大変効果的で親しみを感じた感想が多かった。普段はIT学習のタイプ3の生徒もこの学習に参加するため保護者と通所したり、保護者と一緒に参加した生徒もいた。活動の始まりには、自己紹介、終わりには作品の紹介を行うことで生徒同士が気軽に互いを知り合うことができる交流の場ともなった。

○スポーツ

スポーツはもともとカルチャー&アドベンチャーで行っていた活動である。本来金曜日の午後の活動であるが、本校定時制と共用の体育館を使用できる時間が月曜日午後のみのため、金曜日と曜日交換をしてスポーツは月曜日に実施していたが、年間7回と少なかった。

今年度から月曜日に月2回~3回を確保し、年間17回の計画で行った。内容も今までのように好きな活動を選んで参加するだけでなく、ルールやゲーム形式での活動に慣れるよう様々な運動を取り入れて実施することができた。

●反省と課題

昨年度の反省を元にカルチャー&アドベンチャーの活動を見直し、新たな活動を取り入れたりスポーツを20時間増やした。興味のある生徒にとっては、活動内容が広がりイオに通所したいという意欲につながった。しかし、スポーツを月曜日に設定したことで、イオでのテスト受検が木曜日となり、SSTやエンカウンターとテストが重なってしまった。また、前期の参加率は21,8%と高かったが後期の参加率が17%と下がった。後期入所生徒の積極的な参加を促し、「イオクラブ」等、引きこもり傾向の生徒等がもっと気楽に通所できるよう内容を工夫し、参加人数の増加を図っていきたい。

(5) 音楽リラクゼーション

1.25 現在

定時制教諭の指導により、学校復帰を意識した歌唱、音楽鑑賞、希望する楽器の練習等を通して情緒の安定や演奏の楽しみを味わうことができた。担当教諭からは歌唱の際、今年度は特に声がよく出ていると評価を受けた。平均参加人数は昨年度より3人程度多い。今年度はカルチャー&アドベンチャー・イオクラブの音楽クラブの活動と連携し、年間を通じて楽器の練習に取り組みことができた。この活動を通して、集団の学習活動に参加する意欲が高まり、参加人数の増加につながったものと考えられる。

実施回数	参加延べ人数	平均参加人数
16	148	9

(6) 相談タイム

学習指導カウンセラーとの個別相談の時間を月曜と木曜日に1時間ずつ設定し、希望者の相談に応じた。希望者が多いときは、上記の時間帯以外にも相談タイムを設けるなどして柔軟に対応した。個別相談では、問題解決へむけた目標設定、心理的安定による学習・生活への意欲の高まりなどを目的とし、関わりを行った。

h24.2 現在

月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	計
利用人数	5	9	4	3	4	15	11	4	2	5	62

*10~12月は「こころとからだの健康調査」とともに実施した個別面談も含まれる。

(7) スクールカウンセラーによるカウンセリング

広域カウンセラーの成田先生に、イオ生優先時間帯を設けてもらい、カウンセリングや職員との定

利用者	生徒	保護者	イオ職員との情報交換
利用延べ人数	12人	11人	16回

期的な情報交換をすることができた。イオには成田先生がカウンセラーを兼務している在籍校の生徒もおり、イオと在籍校とで効果的な対応ができるような有益なアドバイスを得られた。

「こころとからだの健康調査」(2011年9～10月実施)より

(1) 調査の概要

「こころとからだの健康調査」は、学習指導カウンセラーがスペース・イオに通所する生徒を対象に行った。生徒の心身の状態を把握し、指導や対応の役立てることを目的とした。調査は質問紙によるアンケートと個別面談からなり、アンケートをもとに生徒のストレス状況を客観的に把握し、個別面談でより詳細な情報収集を行った。

(2) 調査手続き

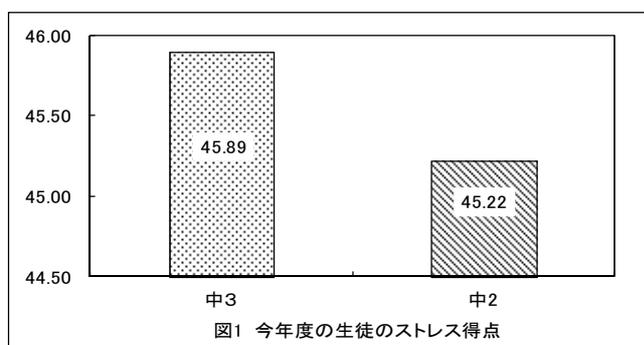
今年度は2011年の9～10月に調査を実施した。通所している生徒に対しては手渡しで行い、主にIT学習を活用しているタイプ2・3の生徒にはITを利用してアンケートを行った。アンケートには「中学生用ストレス反応尺度」(嶋田洋徳「小中学生の心理的ストレスと学校不適応に関する研究」1998年)を使用した。これは、4つのストレス反応の因子(①不機嫌・怒り感情、②抑うつ・不安感情、③身体的反応、④無気力)の表出の程度を調べるものである。アンケートから得られたストレス得点が高ければ高いほど、ストレス反応が強く出ていることを示している。そのほか、起床・就寝時間や家庭での過ごし方などの生活の様子についてもアンケートの項目に加えた。アンケート実施の際は、生徒に調査は強制ではないことをあらかじめ伝え、無記入での返却や個別面談の拒否も可能であることを補足した。アンケート配布部数は46部、回収アンケート部数は30部で、回収率は65.2%であった。個別面談を希望した生徒は17名であった。タイプ別の回収数、面談希望数を以下の表に示す。

	タイプ1	タイプ2	タイプ3	合計
配布数	31	7	8	46
回収数 (%)	22 (70.9%)	5 (71.4%)	3 (37.5%)	30 (65.2%)
面接希望数 (%)	18 (58.1%)	1 (14.2%)	0 (0%)	19 (41.3%)

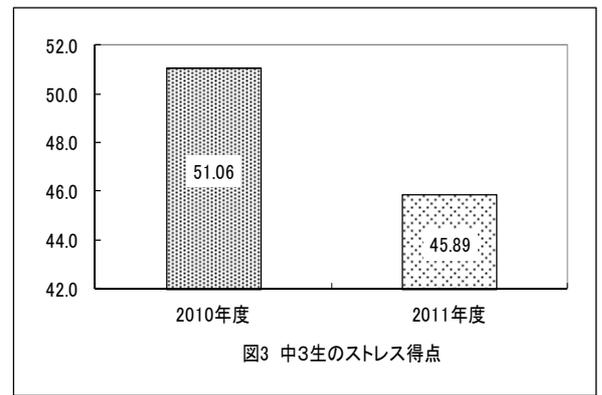
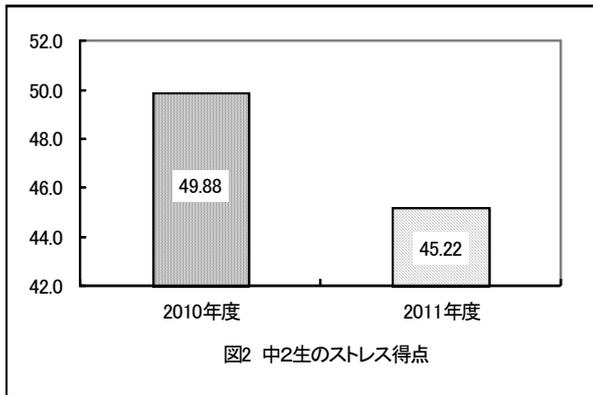
(3) 調査結果

アンケートから得られた今年度の生徒の特徴について考察し、2010年の調査結果と今年度の調査結果を比較した。なお、中1男子・女子については、生徒数が少なく有効な回答が一定数得られなかったため中2男女と中3男女について比較することとする。

ストレス得点から見ると、今年度の生徒は中3生のほうが中2生よりもストレス得点が高く、ストレスを強く感じていることが示された(図1)。



今年度と昨年度の生徒のストレス得点を比較すると、中2生、中3生ともに今年度の生徒のほうがストレス得点が高いことが示された(図2、3)。



次に4つのストレス反応の因子に分類し、各ストレス反応に属する項目ごとにどの程度ストレスを感じているのかを分析した。

不機嫌・怒り感情因子についてはほとんどの項目について“全然ない”と答えた生徒が過半数に上り、“よくある”と答えた生徒は10%ほどにとどまった。抑うつ・不安感情因子においては、「不安だ」の項目については50%以上の生徒が程度に差はあるものの不安な気持ちを感じていることが明らかになった。しかし、一方で、その他の項目については約50%の生徒が抑うつや不安な気持ちを感じていないことが示された。身体的反応因子では、「力がわかない」「だるい」の2項目において、“全然ない”と答えた生徒が30%にとどまった。このことは多くの生徒が力がわかない・だるいなどの不調を感じていることを示しているのではないかと考えられる。無気力因子では、どの項目においても全くストレスを感じていない生徒は30%程度となり、無気力感を感じている生徒が多いということが明らかになった（図4～7、グラフの各項目はアンケートに用いた質問項目である）。

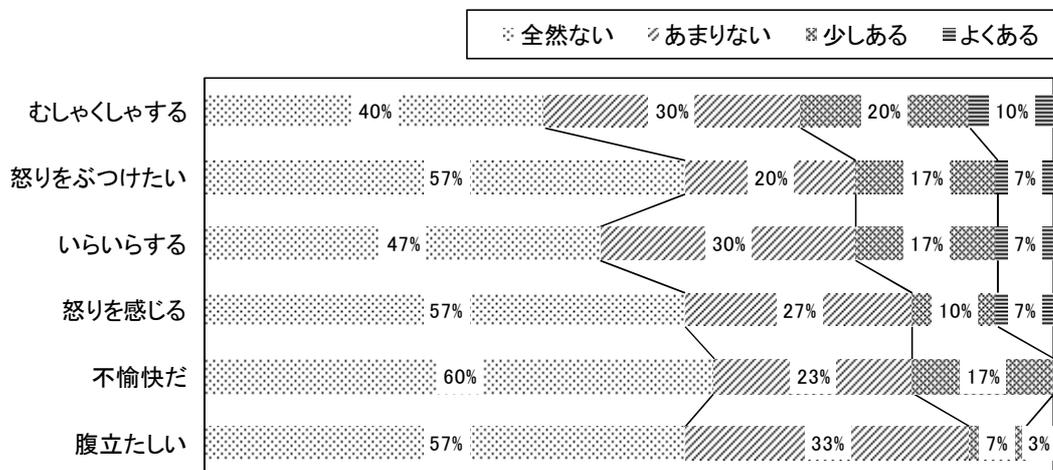


図4 不機嫌・怒り感情

〈平成23年12月11日保護者会講話資料〉

こころとからだの健康調査

【内容】
アンケートの実施、および学習指導カウンセラーとの個別面談

【目的】
生徒の心身状態の把握、今後の指導・対応の検討。

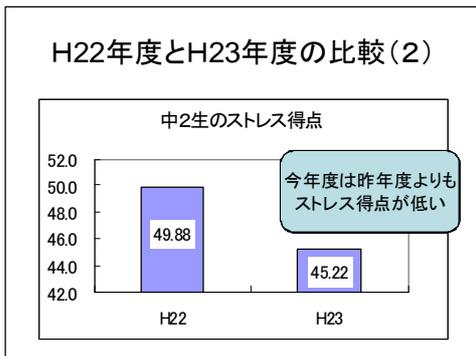
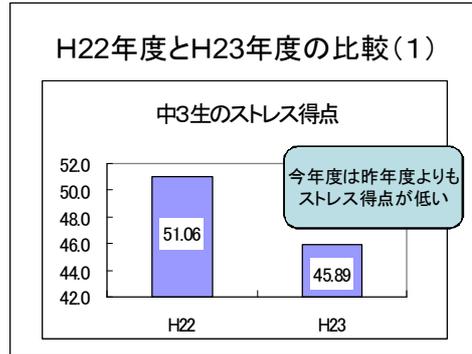
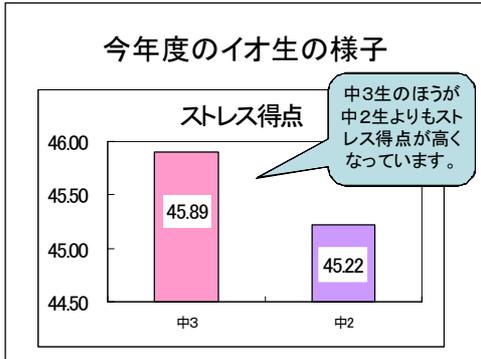
【調査期間】 H22年度 2010年9月
H23年度 2011年9～10月

こころとからだの健康調査

【調査手続き】

- ・生徒に対して個別にアンケートを配布し、その際に記入方法と返却方法について説明した。
- ・生徒には、イオに来所する児童・生徒の心身の状態を知りたいという目的を伝えた。
- ・調査は強制ではなく、無記入での返却、個別面談の拒否も可能であることを補足。

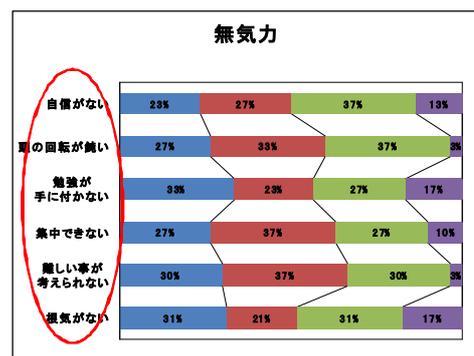
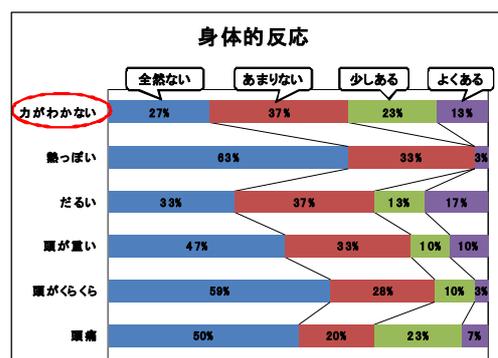
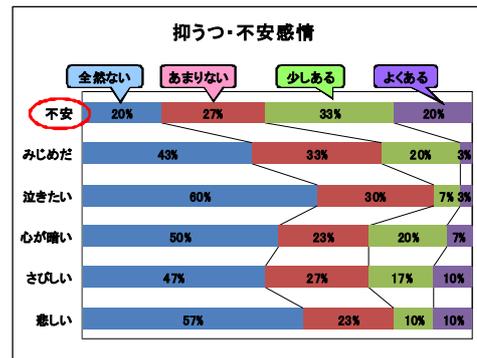
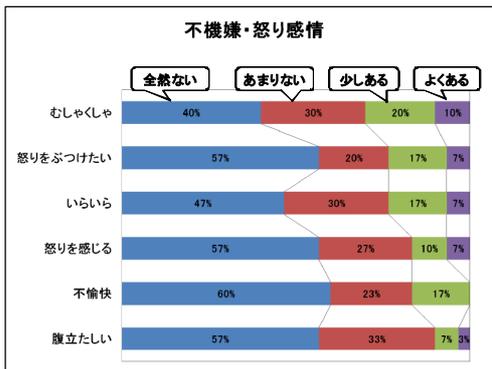
【対象児童・生徒】 アンケート配布生徒数46人
アンケート返却人数30人 (回収率65.2%)
面談希望17人



こころとからだの健康調査より

○中3生は中2生よりもストレスを感じている。
? 進学・受験に対するの焦り

○今年度の生徒のほうがストレスを感じていない??
? ストレスがあるということを認めていないからでは?…この場合、ストレスは**身体的な症状**となって表れることがあります。



○怒りや不機嫌な気持ちはそれほど感じていないものの、不安さや無気力さを感じている生徒が多い。

学校に行けないよう...

勉強が遅れている...

・どうしよう、どうしよう...という不安はあるが、だからといって何も手につかない...



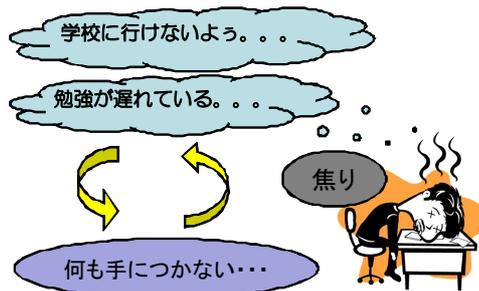
不安と無気力の悪循環

学校に行けないよう...

勉強が遅れている...

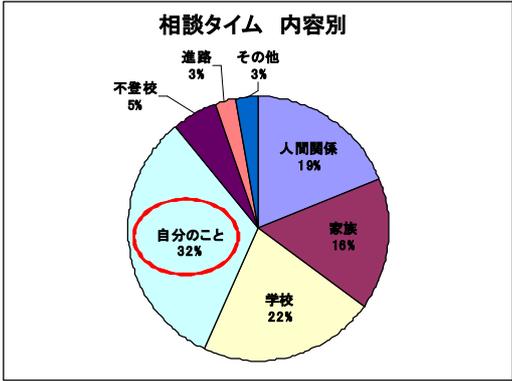
焦り

何も手につかない...



相談タイム

- ・月曜の4校時・木曜の3校時を相談タイムとして設定。
- ・児童生徒や保護者、担当教諭からの要望を受け、柔軟に対応している。
- ・どんな内容でも話してOK。話しやすい雰囲気大切にしている。
- ・12月11日現在、のべ39回、14人の生徒が利用している。

相談タイムから見えてくること(1)

はじめは自分の気持ちを言葉にして話すことが難しい

「なんかやだ」「わかんない」「べつに」「知らない」「なんとなく~」

周囲がとても気になる生徒が多い

「人が怖い」「学校が怖い(クラス、先生etc...)」「人・周囲が気になる」「人にどんなふうに思われているか気になる」

相談タイムから見えてくること(2)

神経症的不登校

ストレスがかかって、心と体にいろいろな不調が現れている状態

登校に対し、意欲はあるが行けない

学校へ強い不安がある

休むことへの強い罪悪感

気分の変動が大きい

息切れ

3 IT等を活用した学習支援の実際

ひきこもり傾向の強い生徒や遠方のため通所が困難な生徒に対して、ITやFAX等を活用した学習支援を実施している。これは学習意欲を高めながら対面指導につなげ、学習の機会を拡大するものである。また、この学習は在籍校において一定回数の対面指導を満たすと出席日数として認定することができる。

IT学習の実施に当たっては、各社のコンセプトを比較検討した。その結果以下の優位性により、平成17年度からNTTレゾナントのHP「ウェブでスクールプラス」（「WEBで宿題」）を使用している。

「ウェブでスクールプラス」の優位性	
①	メール機能と学習機能の双方を有するものは、現在このNTTのもののみである。
②	生徒はニックネームを登録するだけで、個人情報登録する必要がなく安全性が高い。
③	ソフトサービスとなっており、設備の運用や維持に関する利用者負担が少ない。
④	保護者や在籍校の担任等の教員も個別のIDで参加できるシステムである。

(1) IT等学習の状況(2011.2現在)

IT等学習の教科数別の生徒数、年間延べ学習人数、学年別をそれぞれ表にすると以下ようになる。

内 容 項 目	中1	中2	中3	中卒	計(人)
IT担当とのIT学習 (FAX・郵送も含む)	2	5	14	2	23

- ① 96%が「WEBで宿題」を使用している。
- ② 本年度は在籍校の先生と定期的にメールのやり取りしている生徒はいない。

【教科数別】 h24.1現在

教科数	中1	中2	中3	中卒者	計(人)
1教科	0	0	1	1	2
2教科	0	0	0	0	0
3教科	1	2	4	0	7
4教科	0	2	2	0	4
5教科	1	1	7	0	9
なし	0	0	0	1	1
計(人)	2	5	14	2	23

- ① 91%の生徒が3教科以上の教科学習に取り組んでいる。昨年度より7ポイント高い。
- ② 「なし」の中卒生は引きこもりが強く、医療機関とつながっている。

【年間延べIT等学習人数 h24.2.29現在】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	計
延べ人数	89	125	186	134	130	219	215	196	193	169	195	1851
1日平均	5	10	12	8	7	10	10	9	11	9	10	9

【IT等学習回数】

回数\学年	中学1年生	中学2年生	中学3年生	中卒者	計(人)
0～40	1	2	3	2	8
41～80	1	2	5	0	8
81～120	0	1	4	0	5
121～160	0	0	1	0	1
161～200	0	0	1	0	1
計(人)	2	5	14	2	23

- ① 年間 40 回以下の生徒が全体の 35% で前年度と比較して 9 ポイント低くなった。
- ② 年間 81～200 回の生徒は 31% で、前年度比で 6 ポイント低くなった。

(2) メール機能等によるコミュニケーションの効用

メール機能等によるコミュニケーションの効用として以下の 5 点にまとめられる。

- ① 様々な話題で緊張をほぐし、スムーズな学習支援へと移行できる。
- ② 教科、進度、レベル等に関して、より生徒の実態に合うものに調整できる。
- ③ 間違っただけの解答や答えられなかった問題についての説明や解説を行う。
- ④ 予定表等の機能も併用し、通所での学習や活動のイメージを提示できる。
- ⑤ 在籍校の担任のメール参加により、関係者の連携の深まりにつながる。

(3) 学習機能の活用と学習の進め方

I T 学習機能の活用とその学習の進め方をまとめると次のようになる。

- ① 入所後に学習相談を実施し、学習計画について話し合う。
- ② 主担当からのメールの開封、簡単な問題へのトライを通し使い方に慣れる。
- ③ I T 担当が学習計画に基づいた問題を送信する。
- ④ 生徒が解答やメールを返信する。
- ⑤ I T 担当が採点し、誤答や解答できない問題の解説を返信する。
- ⑥ 主担当と I T 担当との連携を密にし、定期的に学習状況を把握する。
- ⑦ I T 学習を通して、他の教材での学習や通所への呼びかけを行う。

(4) 「ウェブでスクールプラス」の新機能の実施について

学習機能とメール機能中心の支援とともに、スペース・イオを I T 学習の生徒にもっと身近で親しみやすく感じてもらうため、「ウェブでスクールプラス」の①掲示板②アルバム③アンケートの各機能を利用して、情報発信を行った。

- ①掲示板 毎週月曜日、通所生向けに行っている連絡タイムの内容を周知した。
- ②アルバム 画像を添付できる機能で、週末にその週のトピックスを画像と文章で紹介した。
- ③アンケート 学習の機能は活用しているが、メール機能での返信のない生徒の反応を引き出すことと、学習活動への興味関心の向上をねらいとし、アンケート機能を利用した。

(5) I T 等学習の成果

主 な 状 況	中 1	中 2	中 3	中 卒	計 (人)
取り組むことができなかった	0	0	0	1	1
I T 等学習に取り組むことができた	1	0	2	1	4
I T 等学習に取り組む回数や教科数が増えた	0	3	2	0	5
家庭訪問時に担任と会えるようになった。	0	0	0	0	0
スペース・イオに通所できた	1	0	4	0	5
在籍校への登校等ができた	0	2	6	0	8
計 (人)	2	5	14	2	23

・イオ通所や登校につながった生徒は、57% で前年度と比較し 4 ポイント上がった。本人の成長はもちろんのこと、生徒の興味関心をくみ取った内容のメールを通しての励ましや、タイプの変更を積極的に呼びかけたこと、休と在籍校との情報交換を生かした在籍校からの効果的な働きかけ等が主な要因と考えられる。一方で中卒者の引きこもり傾向が強い。今後の課題として、中卒生については入所時に目標を明確にし、来所を促すなど次の進路につながるような指導や他機関との連携の推進が考えられる。

V 学校・保護者等との連携のあり方

スペース・イオは、設立当初から、在籍校や保護者とイオの連携を重視して、様々な取り組みを行っている。以下は今年度の取り組みの主なものである。

1 学校(在籍校)との連携を深めるために

(1) 入所にあたって

入所申請は、保護者や本人が作成した申請書に学校が指導の記録である副申書を添えて市町村教育委員会経由でスペース・イオに提出される。学校、市町村教育委員会、教育事務所が入所申請の状況を把握することで、各機関のバックアップのもと支援が行われる体制である。

(2) 在籍校校長と本校校長の情報交換(校長面談)

平成 21 年度までは、スペース・イオの周知と理解を目的に、在籍中学校長にスペース・イオを訪問してもらい、本校校長との面接を実施し、スペース・イオの運営方針等の説明とともに、子どもについての情報交換、今後の指導の方針や連携の重要性を確認し合ってきた。平成 22 年度から、本校校長の中学校訪問と兼ね、本校校長または管理職が、入所申請のあった子どもの在籍中学校へ訪問し、上記の内容を伝えた。今年度は、前期中学校 18 校、後期中学校 3 校、適応指導教室 1 ヶ所を訪問し、校長面談を実施した。その後の指導やスムーズな連携につながった。

(3) 「記録」の交換

スペース・イオでは、子どもの出席状況や学習状況等について主担当が毎月、個人毎に報告書を作成して在籍校に報告している。また、在籍校からも登校状況や家庭訪問の状況などについての「在籍校での指導の記録」を提出してもらっている。これにより、スペース・イオと在籍校が子どもの変容に対しよりタイムリーに連携しての対応ができる。

今年度から、適応指導教室と併用している生徒の状況をより細かく把握するため、適応指導教室 2 教室との記録の交換を行っている。

(4) 「評価」に関して

文部科学省初等中等教育局長通知の「不登校児童生徒の学習状況の把握と学習の評価の工夫」の趣旨にもとづいて、在籍校校長あてに本校校長名で「不登校児童生徒の調査書等への『評価』の記入について(依頼)」の文書(平成 18 年 7 月 5 日付)を送付している。

これ以後、在籍校職員のスペース・イオ訪問や家庭訪問等がより多く行われるようになり、適切な評価に向けた在籍校の取組が進んできている。

(5) 在籍校担任等連絡協議会の開催

本年度も夏季休業中に「児童生徒在籍校担任等連絡協議会」を開催し、不登校児童生徒の担任を中心に 18 名の参加があった。協議会では「イオの概要説明とアンケート結果報告」、秋田県総合教育センター指導主事植田雅人先生による「不登校の現状と対応について」の講話、グループ協議等を行った。

(6) スペース・イオ説明会の開催

開所から平成 19 年度までの 3 年間は、「スペース・イオ入所説明会」という名称で実施

してきた。2年目からは対象を学校関係者等とし、スペース・イオの運営に関する説明、入所手続き等の内容である。平成20年度からは開催の趣旨をより反映した「スペース・イオ説明会」と名称を変更した。またこの説明会がより多くの学校関係者のスペース・イオ理解につながるよう、今まで参加していない方への出席も呼びかけてきた。以上のような取り組みにより、スペース・イオが周知され、手続き等も円滑に行われるようになってきている。今年度は更なる周知に向け、説明会時に個別の相談会も併せて実施し、「平成24年度スペース・イオ入所にかかわる説明会」と名称も変更して開催した。

(7) 在籍校担任等のイオ訪問の推進

在籍校との校長面談時にも協力を依頼し、担任や相談担当職員のイオ訪問を推進した。訪問の目的は、担当児童生徒に関する主担当との情報交換、イオの見学、及び担当児童生徒との学習や進路に関する面談等である。

本年度7校、延べ12回の来所があり（12/28現在）、個々の児童生徒への支援の充実につながった。

2 保護者との連携

(1) 保護者会の活動

スペース・イオの教育活動の支援と保護者の研修、親睦を目的に次のような事業を行った。

月 日	保護者会事業	内 容
5月17日	保護者会総会	役員選出、事業計画及び会計予算案について（参加者26名）
8月 2日	第1回役員会	第1回保護者会に向けて
8月28日	第1回保護者会	イオ先輩保護者の講話、懇談会（参加者23名）
10月22日	第1回会計監査	会計監査
12月11日	第2回保護者会	学習指導カウンセラー小林先生の講話・懇談会（参加者25名）
3月11日	第2回会計監査	会計監査・会計決算報告について
3月11日	保護者会総会	会計決算報告（修了式後）

保護者会では、講話、体験談、懇談等が行われた。アンケートには「親の精神衛生の場となる役割で貴重な機会だ」「在籍校の保護者とはためらいがある。今回は深く話せた。」「先輩保護者や小林先生の話がためになった」などの声が寄せられた。今年度は、保護者会会長が呼びかけ、保護者会以外の場でも懇親を深めるなど保護者同士の結びつきがさらに深まった。お互いに連携する場として、保護者とイオのスタッフが信頼関係を築く場として、保護者会の意義は今後も大きいと思われる。

(2) 保護者面談

入所児童生徒の支援を進めるに当たって、保護者とのきめの細かい連絡は欠かせない。児童生徒の不登校の改善に向けて、日常的に密に連絡がとれるよう、体制を整えている。さらに、スペース・イオでの子どもの様子、家庭での様子、スペース・イオへの要望等に関する情報交換を目的に、夏季休業中に主担当が保護者との定期面談を実施している。また、秋には高校進学をめざしている子どもの保護者に対して、必要に応じて随時面談を実施し、進路希望の確認や進路相談を行っている。2月には、中2以下の子どもの保護者と、今年度の様子についてと来年度の方向性についての話し合いの場を設けている。これらの面談を通して、子ど

もの多様な状況が確認でき、より有効な支援に結びつけることができた。

3 NPOとの連携

「不登校を考える親の会あきた」（以下「親の会」と表記）は不登校の子どもを持つ親が中心となり、平成10年発足した団体であるが、平成17年5月NPO法人となった。長年にわたり不登校の子どもや保護者への相談支援活動や体験的な集団活動の企画・実施等で多くの実績を上げてきた。「親の会」と連携することで、外部から多くの支援が得られ、スペース・イオの活動は広がりを持ち、子どもたちへのさまざまな関わりが可能となった。

(1) 体験的活動における協同

スペース・イオの学習プログラム中の「カルチャー&アドベンチャー」において企画やスタッフの派遣等の面で協力を得ることができた。「親の会」スタッフやボランティアによるきめの細かい支援によって生徒の希望に応じたグループ活動が実現でき、支援を受けながら活動にじっくりと取り組むことができた。今年度は、さらに美術の活動にも参加していただき、専門的な美術指導を仰ぐことができた。

実施日	内 容	親の会指導員等数	参加児童生徒数
6月 3日	イオクラブ（イラスト）	2	10
6月10日	カップケーキ作り	3	16
10月 3日	パステルアート	3	9
10月21日	クレープ作り	3	15
11月 28日	イオクラブ（イラスト）	2	8
12月 2日	クリスマス音楽会に向けて1 会場装飾	4	10
12月 9日	クリスマス音楽会に向けて2 カード作り	4	12

(2) NPOの諸活動とスペース・イオ

「親の会」の事業の一つとして、フリースクール「KOU」がある。毎週水曜日午後1時からされており、スペース・イオへの来所がまだ安定しない子どもたちが参加し、親の会のメンバーと話をしたり、勉強を教えてもらったりしながら過ごした。また、カルチャー&アドベンチャーには、世代を超えた交流やスペース・イオ以外の場での活動に参加することで、子どもたちは体験を深め、社会的適応の領域を広げていった。

「親の会」では、いろいろな悩みを抱えている不登校児童生徒の保護者に対して相談活動も行っている。さらに平成20年には新たに若者自立支援ネットワーク「サポートステーションあきた」が開設され、スペース・イオへ寄せられる相談の際に、中学校卒業後の子どもたちへの支援機関として紹介している。

(3) 文部科学省実践研究事業の継承

文部科学省の実践研究事業としてスペース・イオが取り組んできた2年間の調査研究を土台に、それを引き継ぐ形で「親の会」が「平成19年度不登校への対応におけるNPO等の活用に関する実践研究事業」を実施した。（平成19年7月1日～平成20年3月31日）。「ひきこもり傾向にある児童生徒及び保護者に対する効果的な訪問指導の在り方」

「児童生徒及び保護者の交流の場づくり」が研究テーマであった。この実践研究事業の実施により、ひきこもり傾向にある児童生徒への効果的な働きかけと回復へのプログラムの充実が図られた。

4 関係機関との連携

(1) 「まなび」ネットワークアドバイザー

県南、県北地区に設置されるフリースクールの空間の円滑なスタートのために、平成19年に「まなび」ネットワーク拡大支援事業が実施された。これにともない、「まなび」ネットワークアドバイザーが配置され、上記の目的とともに不登校児童生徒の状況を把握して在籍校や適応指導教室等との連携の方途を探るなど、より多くの不登校児童生徒の支援の充実を図るため活動した。

「まなび」ネットワーク拡大支援事業は平成19年のみの実施であったが、「まなび」ネットワークアドバイザーの配置は平成20年度まで継続され、2年間に渡って活動した。

平成21年度以降は、教育専門監が中心となって、小中学校や適応指導教室との連携、県北地区へのスペース・イオ設置に向けての以下のような取組を進めている。

①スペース・イオよこての円滑なスタートに向けた支援と連携

スペース・イオよこては平成20年6月に開所となり、開所前の立ち上げ支援や開所後の運営支援を行った。スペース・イオでの支援や運営をモデルとしつつ、県南地区の特徴を踏まえての「スペース・イオよこて」作りに「まなび」ネットワークアドバイザーの役割は重要であった。

今年度は、平成25年度に開設予定で県内3つめとなるスペース・イオ「イオ大館」（仮称）の設置に向けた連携強化のための「I Oの会」を立ち上げた。年2回ではあるが、「イオよこて」と定期的に管理・運営、生徒の利用状況などの情報交換を行い、各校の地域差や実情を知ることができた。スペース・イオのIT学習を活用しながら、通所は「イオよこて」という両イオ併用の新しい試みに取り組んでいきたいと考え「イオよこて」に取組の依頼を行った。今年度の該当入所生はいなかったが、次年度も「イオよこて」と協力・連携を図りながら、不登校の改善に向けた効果的なイオの活用に取り組んでいきたい。

②小中学校の相談室や適応指導教室へのスペース・イオのシステムと成果の周知

「まなび」ネットワークアドバイザーの活動によって、平成20年度は18校（県南6校、男鹿南秋5校、秋田市7校）、教頭会5回（男鹿、大館、鹿角、能代市、大曲・仙北）、適応指導教室延べ7回（おおとり、北さわやか、はまなす、中央さわやか、フレッシュ広場、横手かがやき）に訪問した。スペース・イオのシステムや成果を伝えるとともに、小中学校では不登校児童生徒の対応や相談室運営のあり方についての情報交換を行い、全県的にスペース・イオの周知及び関係機関との連携が進んだ。

今年度は、全県的なイオの周知に向け、イオのIT学習を活用しながら、近隣の適応指導教室に通級するという併用の取り組みに向けて、8月開催の「平成23年度適応指導教室等連絡協議会」において発表し、県南・県北の適応指導教室に協力依頼を行った。現在、能代市「能代はまなすひろば」、秋田市「すくーるみらい」の2ヶ所に各1名ずつ併用生徒が在籍し、生徒の記録の交換やIT学習を活用した担当同士の情報交換を行っている。

VI 成果と課題

1 生徒の改善状況

(1) 全体的な改善状況

一人一人の生徒の入所前や入所当初の様子から現在の状況を確認・比較してみると次のような改善状況にまとめられる。

タイプ別	登校行動あり	登校の意志あり	回復傾向	ひきこもり状態	計(人)
タイプ1	30	4	20	0	54
タイプ2	6	4	5	1	16
タイプ3	3	0	2	2	7
計(人)	39	8	27	3	77

①「登校行動あり」の割合は51%である。「登校行動あり」の中には年度途中に学校復帰し、イオを退所した生徒6名も含まれている。「登校の意志あり」が10%で「回復傾向」が35%である。「ひきこもり状態」は4%であった。全体としての改善率は96%で、昨年度より1%減少している。「登校行動あり」の割合は昨年度より8%増加している。(昨年度43%)前年度より9%増加している。テスト受検をきっかけとしている生徒が多い。「回復傾向」は昨年度に比べて減少(同53%)している。

今年度のイオの生徒の傾向として、登校に関しては、実際に登校したり、登校を意識できるまでに回復した生徒の割合が高い。昨年度タイプ3の生徒33%だが今年度は9%と低く今年度の入所生は通所したいという希望をもっている生徒が多いことからもうかがえる。

②「ひきこもり状態」の生徒は3名、タイプ2が1名・タイプ3が2名の男子である。中卒生でIT学習が滞っている生徒への支援は難しい現状である。

(2) 具体的な生徒の変容

イオでの学習や活動の様子、学校との関わり等から、生徒の具体的な変容を挙げると以下ようになる。

① 通所の生徒の変容

- ・ 通所しての学習時間や日数が増える。 ・ 学習教科が増える。
- ・ 自学自習のみから個別学習も受ける。 ・ 授業形式の学習に参加する
- ・ 体験・集団学習のスタディワークやカルチャー&アドベンチャーに参加する。
- ・ ソーシャルスキルトレーニングやエンカウンターに参加する。
- ・ 英語検定や歴史検定等にチャレンジする。 ・ 高校の選抜試験を受験する。
- ・ 来所できないときも学習するためにタイプ1から2へ変更した。
- ・ 通所できないタイプIの生徒にタイプ2への変更を勧め、IT学習を行うことによって通所できるようになった。

② IT等学習の生徒の変容

- ・ メールや電話等でのやりとりが始まる。
- ・ 教科数が増える。 ・ 学習回数が増える。
- ・ 学校の教科書やワーク等の学習にも取り組み、学習の広がりが見られる。
- ・ 通所日数が増える。 ・ タイプ変更(2から1へ)し、週5日通所する。

③ 学校との関わり等の変容

- ・ 家庭訪問時に担任と会うことができる。
- ・ イオで学校の実力テストや課題テスト等を受ける。
- ・ 学校祭や合唱祭、修学旅行に参加する。
- ・ 学校またはイオで二者又は三者面談等を受ける。
- ・ 登校して別室で学習したり、テストを受けたり、部活動に参加したりする。
- ・ 登校日数が増える。 ・ 教室での学習に参加する(含給食)。

④ その他

- ・ スペース・イオの個別ブースから共有スペースへ移り、自学自習に取り組む。
- ・ 校外学習(県立博物館、小泉瀉公園)に参加する。 ・ カウンセリングを受ける。
- ・ クリスマス音楽会への出演および係り、参観者として参加する。

2 平成17～22年度入所生徒の進路決定と高校進学後の状況

開所から今年度までの「進路決定状況」及び「高校進学後の状況」は次の通りである。

【平成17年度】

平成17年度 中学3年生、中卒者の進路決定状況 (在籍30人中)					
明德館高等学校		公立高	私立高	イオ継続	その他
定時制	通信制				
9	9	3	3	5	1
18					
24				6	

(高1)

平成17年度入所生徒の高校進学後の状況					
平成18年9月調査					
	成績 上位者	成績 中位者	成績 下位者	その他	計
出席良好	6	6	1	0	13
欠席がち	2	1	1	0	4
欠席多い	1	0	0	*6	7
計	9	7	2	*6	24

* 休学、進路変更の予定等

【平成18年度】

平成18年度 中学3年生、中卒者の進路決定状況 (44人中)					
明德館高等学校		公立高	私立高	イオ継続	その他
定時制	通信制				
15	14	1	7	4	3
29					
37				7	

(高1)

平成18年度入所生徒の高校進学後の状況					
平成19年9月調査					
	成績 上位者	成績 中位者	成績 下位者	その他	計
出席良好	20	5	2	0	27
欠席がち	1	0	3	0	4
欠席多い	0	0	0	6	6
計	21	5	5	*6	37

* 休学、転校等

中3・中卒生の84%が進学、内16%が進学後に休学、転校等の進路変更した。

【平成19年度】

平成19年度 中学3年生、中卒者の進路決定状況 (60人中)					
明德館高等学校		公立高	私立高 含NHK学園	通信制 サポート校	その他
定時制	通信制				
28	10	8	3	5	6
38					
54				6	

(高1)

平成19年度入所生徒の高校進学後の状況					
平成20年11月調査					
	成績 上位者	成績 中位者	成績 下位者	その他	計
出席良好	17	13	5	0	35
欠席がち	0	1	1	0	2
欠席多い	0	1	4	12	17
計	17	15	10	*12	54

平成19年度分の追跡調査は在籍校で実施
* 休学4名、転校等4名、その他4名

中3・中卒生の90%が進学、内22%が進学後に休学、転校等の進路変更した。

【平成20年度】

**平成20年度
中学3年生、中卒者の進路決定状況**
(51人中)

明德館高等学校		公立高	私立高 含NHK学園	通信制 サポート校	その他
定時制	通信制				
16	14	5	8	2	6
30					
45					6

中3・中卒生の80%が進学。在籍校での実施で未回収等6名がその後の状況を把握できなかった。

【平成21年度】

**平成21年度
中学3年生、中卒者の進路決定状況**
(46人中)

明德館高等学校		公立高	私立高 含NHK学園	通信制 サポート校	その他
定時制	通信制				
17	6	6	8	4	6
23					
41					5

平成21年度よりイオで調査を実施する。中3・中卒生の89%が進学、うち10%が休学等進路変更している。(タイプ1が3名うち2名は再受験し改善、タイプ3が1名)

**平成22年度
中学3年生、中卒者の進路決定状況**
(43人中)

明德館高等学校		公立高 (含特別支援学校)	私立高 含NHK学園	通信制サ ポート校	その他
定時制	通信制				
19	6	6	3	6	3 (イオ継続1)
25					
40					3

中3・中卒生の93%が進学、うち10%4名が休学等進路変更している。(タイプ3が3名、タイプ1が1名)

平成17、18年度分に関しては、スペース・イオで追跡調査を行った。調査時には、高校進学者の20%程度は欠席が多くなり、休学等の手続きを取る予定であるが、80%程度は、順調に単位を取得しつつあり、大多数が学習面、出席面で学校生活に適応しているという結果であった。

平成17年度入所生徒に関しては、2年間の追跡調査を行っているが、高校1・2年の状況を比較すると、1年次よりも2年次の方が学習成績、出席状況とも向上している。クラス担任からは、諸行事にも積極的に取り組み、リーダー的存在になっている者も多い、との回答が寄せられている。また、秋田明德館高校に進学した生徒は、スペース・イオの子どもたちの相談相手となったり、よい影響を与えたりしている。

(高1)

平成20年度入所生徒の高校進学後の状況
平成21年12月調査

	成績 上位者	成績 中位者	成績 下位者	その他	計
出席良好	10	18	5	0	33
欠席がち	0	1	0	0	1
欠席多い	0	0	0	3	3
計	10	19	5	3	37

平成20年度分の追跡調査は在籍校で実施
* 休学2名 記載なし1名 連絡とれず1名 未回収4名

(高1)

平成21年度入所生徒の高校進学後の状況
平成22年11月調査

	成績 上位者	成績 中位者	成績 下位者	その他	計
出席良好	17	10	3	0	30
欠席がち	1	2	0	0	3
欠席多い	0	2	1	4	7
計	18	14	4	4	41

平成22年度修了生徒の高校進学後の状況

平成23年11月調査(12校40名)

	出席良好	欠席がち	欠席多い	その他	計
上位	15	0	0		15
中位	13	1	1		15
下位	2	1	0		3
その他	0	0	3	4 (休学2・進学他2)	7
計	30	2	4	4	40

22年度の状況調査はイオで実施

平成19年度については在籍校に調査を依頼し、27校のほぼすべての学校から報告をもらっている。出席及び成績面では、過去2年間と同じような傾向であった。生活面でも周囲が驚くほどの変容を確認できたり、大学進学を目指したり、生徒会や部活動で活躍したりしている生徒も目立つ。

平成20年度は、在籍校26校中25校から報告をもらっている。90%が出席良好で、成績も中位から上位に位置しており、高校入学をきっかけに不登校をリセットしたいと考えた生徒が、それぞれ高校生活での自己実現をめざし、学習面でも成果を出そうと頑張っている姿が推察される。19年度にくらべ、欠席が多いとされる生徒が少ないことも20年度の特徴である。しかし、未回収があり、正確な調査には至らなかった。

平成21年度からは、イオが直接進学先へ調査を依頼した。現在の様子なども付記してもらい生徒会活動、部活動等で活躍している生徒が多く、学習面でも上位者が多かった。

平成22年度もイオで実施した。出席や学習状況、部活動等積極的に取り組んでいるという生徒の改善状況を詳しく把握できた。

進学先について、本校へ進学した生徒の割合は、56%から78%を推移しており（※表1）、イオの子どもたちの進学先として一番多くなっている。同じ場にある本校を身近で安心できる場として選択していることが推測できる。

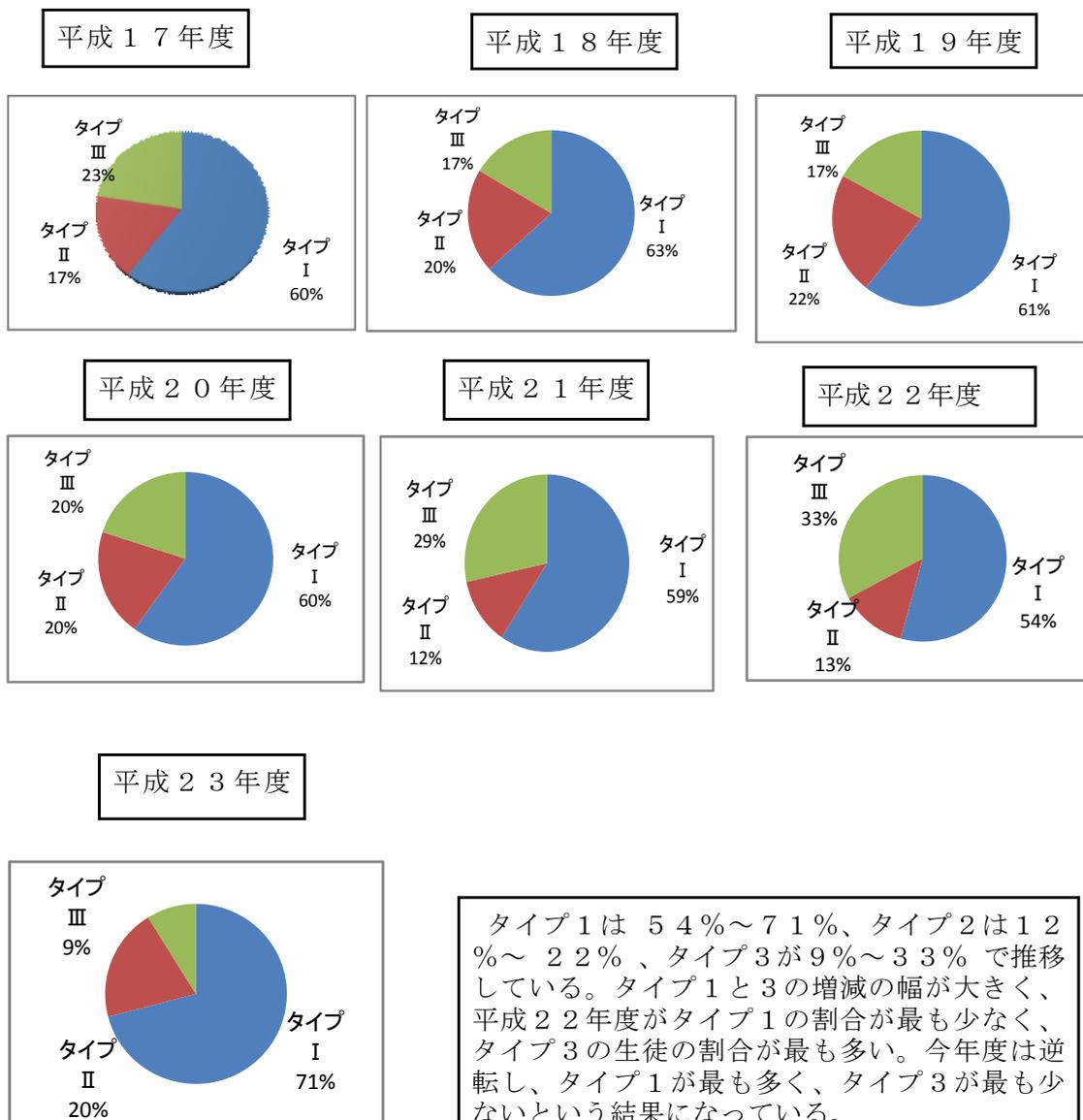
（表1）本校進学率

年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
割合	75%	78%	70%	67%	56%	63%

3 タイプ別推移と学習プログラムの参加比率

(1) 入所生のタイプ別推移

平成17年度～平成23年度までの入所タイプ別の割合を比較した。



タイプ1は 54%～71%、タイプ2は12%～22%、タイプ3が9%～33%で推移している。タイプ1と3の増減の幅が大きく、平成22年度がタイプ1の割合が最も少なく、タイプ3の生徒の割合が最も多い。今年度は逆転し、タイプ1が最も多く、タイプ3が最も少ないという結果になっている。

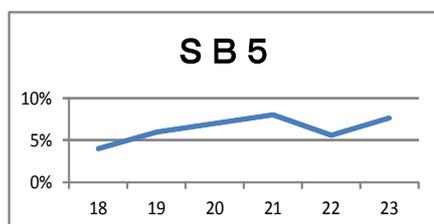
今年度は、タイプの積極的な変更を行い、特にIT学習中心のタイプ3の生徒に通所を呼びかけ、タイプ2や1への移行を働きかけたことがタイプ1の増加につながったと思われる。

また、改善状況結果から、継続的に教室や保健室に登校していたり、部活動や行事、テスト受検等に積極的に参加できた生徒が51%（22年度比較43%）で、通所や登校に意欲的な生徒の入所割合が高く、イオでの支援を受けて実際の登校行動に結びついていったのではないかとと思われる。

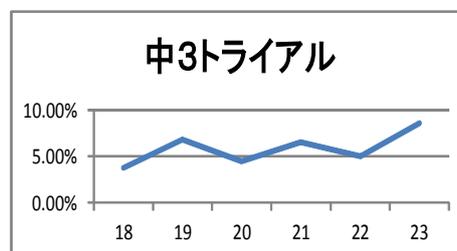
(2) 学習プログラム参加比率の比較

平成18～23年度の入所生徒数と各学習プログラム1回当たりの平均参加人数の割合の比較である。

【学習支援プログラム】



5教科のばらつきはあるものの、5%～12.4%で推移し、参加平均人数は4人～12人の範囲である。平成21年度が最も高く、平成18年度が最も低かった。今年度は2番目の高さであった。

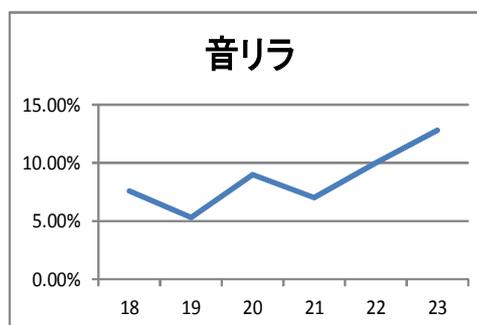


3教科のばらつきはあるものの、5.3%～12.8%で推移し、参加平均人数は5人～9人の範囲である。今年度が最も高く、平成19年度が最も低かった。

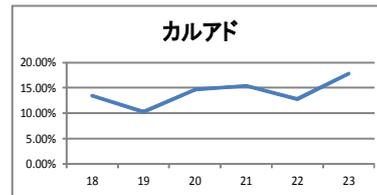
【集団適応支援プログラム】



5%～12.4%で推移し、参加平均人数は4人～12人の範囲である。平成21年度が最も高く、平成18年度が最も低かった。今年度が2番目の高さである。



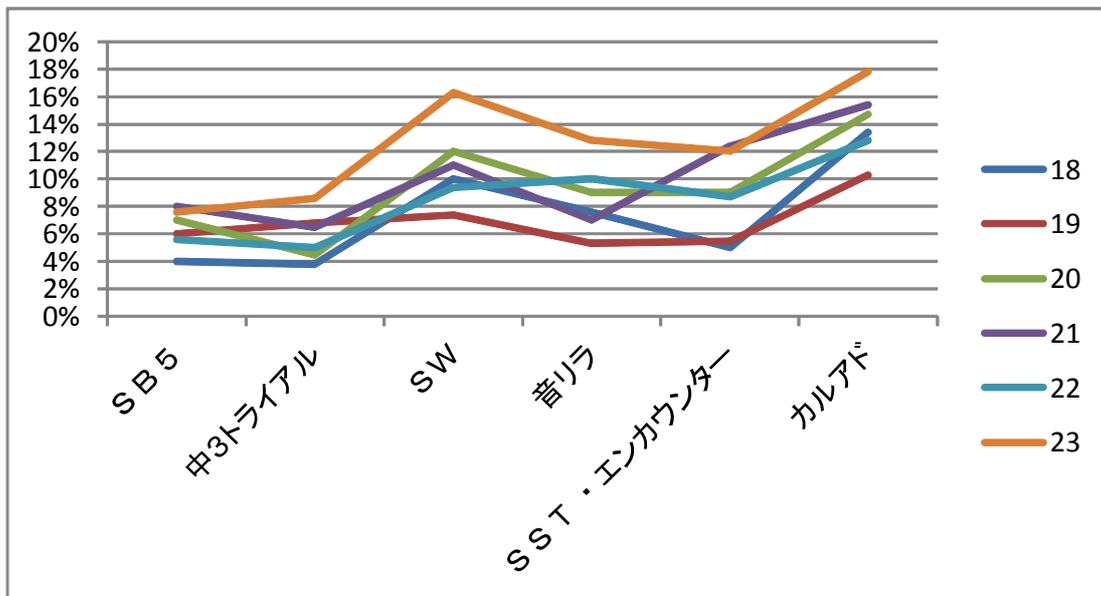
5.3%～12.8%で推移し、参加平均人数は5人～9人の範囲である。今年度が最も高く、平成19年度が最も低かった。



7.4%～16.3%で推移し、参加平均人数は7人～12人の範囲である。今年度が最も高く、平成19年度が最も低かった。

10.3%～17.8%で推移し、参加人数は9人～14人の範囲である。今年度が最も高く、平成19年度が最も低かった。

【全学習参加率の比較】



各年度を比較すると平成19年度の集団学習プログラムの参加率が低い。今年度の生徒は、どの学習においても参加率が高いことが言える。昨年度と比較すると、昨年度の生徒はタイプ3が多く学習参加率も低い比較ことが読み取れる。本人のペースを大切にしながらも学習参加とタイプ変更を働きかけ、意欲が高まった生徒には、在籍校と連携し、早めの学校登校を促しての積極的な支援に心がけていくことが効果的である。

4 今後の課題

今後の課題として次の点があげられる。

(1) ステップアップ・プログラムの更なる充実

学習支援プログラムと集団支援プログラムの見直しと改善により、ほとんどの学習プログラムで開設から参加率が最も高いという結果を得ることができ、プログラム見直し・改善が効果的だったことが確認された。SB5やスタディワーク等の集団学習に参加できる生徒が増加し、中3生の多くが受験期で登校し、高校入学後の出席や成績面でも良好な状況等が確認されている。しかし、後期入所以降の参加率が下がってしまうことから、後期入所以降の入所生への支援について考えていかなければならない。次年度は、入所時期に関わらず、生徒自身が自分の学習進度を把握できるように今年度作成した「数学チェック表」を活用したり、英語の学習経験がほとんどない生徒でも参加できるよう、「SB5英語の2グループ化」を実施し、学習の定着に向けた取組を実践していきたい。また、課題であるIT中心で引きこもり傾向の中卒生への効果的な支援のあり方を探っていきたい。

(2) 在籍校との連携強化

毎月の指導等の記録の交換、校長面談や担任等のイオ訪問、また担任等連絡協議会での話し合い等によって、在籍校とスペース・イオとの情報交換が図られた。これにより、不登校児童生徒への対応が進み、個々の生徒へのタイムリーな働きかけ、相談室の運営の充実、学習の評価等へと結実する在籍校も見られるようになった。

見学相談の際に在籍中学校からの紹介のケースが増え、その後の入所が速やかに進んだ。見学相談が、保護者、本人がスペース・イオ入所を視野にいれながらも現状を再考する機会につながるのではないかと思われる。在籍校と不登校の改善に向けて今後も連携を深めていきたい。

また、担任等連絡協議会等の充実、校内スペース・イオの設置に向けた支援、評価に関する協力等も強めていきたい。

(3) 関係機関との連携

小中学校の相談室、各地域の適応指導教室、ふきのとう秋田、教育センター、各医療機関、NPO「不登校を考える親の会あきた」等との協力関係を持ちながら、全県的な不登校・ひきこもり傾向の児童生徒への支援のネットワークを進めると共に不登校を長引かせないための支援や不登校歴が長い生徒への効果的な支援について、在籍校や若者の自立支援に向けた様々な関係機関との連携が必要である。

今年度は、イオの更なる周知に向けて、適応指導教室やイオよこてとの連携に取り組んだ。現在入所生の83%が秋田市内の小中学生である。秋田市内や中央での周知はある程度進んでいると思われるが、県北・県南から入所し、IT学習を活用して不登校の改善が図られた修了生の好事例を県北・県南に向けて発信していきたい。

おわりに

各学習の参加率を比較してみた結果から、後期入所以降学年度末までの入所生徒の集団学習参加率が下がることが確認された。これは、イオの入所や学習システムにも関係している。前期の募集で入ってきた入所生は、5月中旬の入所式後から学習プログラムが始まる。その後入所希望の生徒は、随時体験入所で入所し、後期の募集で正式な入所となる。今年度は、前期42名、6月以降から後期入所までが20名、9月中旬から1月末現在までの入所生は17名である。前期の42名は同時期入所でまとまりやすく、集団学習にも早期から参加しているため継続しやすいが、6月以降随時入所してくる生徒にとっては、イオという新しい環境に慣れるまで長い時間と配慮が必要であることを改めて示唆した結果である。入所の期間や時期にかかわらずイオを活用した児童生徒一人一人がイオの支援プログラムを十分に活用したという満足感・充実感を味わうことができるような支援や効果的なプログラムを目指して今後も取り組んでいきたい。

資料1

平成23年度 スペース・イオ行事実施記録

月日	内容
4/4	前期入所申請書配布（～4/13）
4/4	I T等学習開始
4/11	通所体験学習開始
5/12	第1回運営協議会・審査会
5/19	前期入所式・保護者会総会
5/26	1学期始業式
5/30	県総合教育センター研修員による研修Ⅰ（～6/1）
6/6	秋大大学院生による実習開始（～12/8）
7/15	1学期終業式
7/16	保護者面談（～8/2）
8/1	保護者会役員会
8/5	在籍校担任等連絡協議会
8/19	2学期始業式
8/22	校旗入所申請書配布（～9/1）
8/28	第1回保護者会

月日	内容
9/9	校外学習（県立博物館・小泉潟公園）
9/29	第2回運営協議会・審査会
10/5	県総合教育センター研修員による研修Ⅱ（～10/20）
10/13	後期入所式
12/9	2学期終業式
12/11	クリスマス音楽会・第2回保護者会・前期会計監査
1/13	3学期始業式
2/12	三者面談（～3/2）
2/17	スペース・イオ説明会
3/2	保護者会会計監査
3/10	修了式・保護者会総会

資料2

平成23年度 視察関係一覧

視察日	視察者等	人数
4/15	秋田県発達障害者支援センター	4
5/25	アルヴェ内チャイルドセーフティセンター	2
6/14	秋田県教育庁中央教育事務所	1
6/23	秋田県精神保健センター	5
7/15	広島県教育委員会	2
8/3	名古屋市子ども適応相談センター	2
8/8	秋田県生涯学習課	1
10/27	潟上市家庭相談員	1
1/26	秋田県立栗田養護学校	5
1/27	青森県生涯学習課	2

回	月	日	プログラム	ねらい	参加人数	
1	6	9	自己紹介をしよう	・ソーシャルスキルとその必要性について学ぶ。 ・友達と初めて関わる時のスキルを学ぶ。	7名	
2	6	16	仲間に誘う・加わる		7名	
3	6	30	しっかり話を聴く	・コミュニケーションについて学び、円滑な人間関係を築くためのスキルを身につける。	5名	
4	7	14	じょうずに質問する		11名	
5	9	15	気持ちに共感する		10名	
6	9	29	あたたかい言葉をかける		11名	
7	11	10	はっきり伝える		11名	
8	11	24	きっぱり断る		10名	
9	12	8	やさしく頼む		10名	
10	1	26	問題解決セラピー		9名	
11	2	9	気持ちをコントロールする		・自分の気持ちや問題について、自分でコントロールできるようになる。	10名
12	2	23	トラブル解決策を考える			8名

構成的グループエンカウンター実施記録

回	月	ねらい	エクササイズの内容	参加人数
1	6	・人間関係づくり	ネームゲーム	6名
2			X先生を知るYES・NOクイズ	
			ペンネームづくり	5名
			絵しりとり	
3	7	・自己理解・他者理解	二人のハートはぴったりんこ	11名
			無人島からのSOS	
4	8		エゴグラム	
	9		私は私が好きです。なぜならば・・	
5			ブラインドデート	
			私の価値観と職業	9名
6	10	・自己理解・他者理解・協力	共同コラージュ	9名
			トランプの国の秘密	
7	10	・自己理解・他者理解	上手に断る	11名
8	11		うわさ話って	9名
9	12		みんなでリフレーミング	8名
10	1		質問じゃんけん、私と職業①	12名
11	2		私と職業②	11名
12			私がイオに行くわけ・うれしかったこと	7名
13	3		・成長の自覚と感謝の気持ち	考え方をチェンジ・別れの花束

資料4

スタディワーク及びカルチャー&アドベンチャー実施記録(2月末まで)

【スタディワーク】

月	日	題材名	参加人数
5	31	理 いろいろな飛行物体	10
6	7	社 千秋公園でスタディ	11
	14	理 水や氷でレンズを作る	7
	21	社 赤レンガ館でスタディ	9
	28	理 真空保存容器で圧力を学ぶ	13
7	5	社 市民市場でスタディ	12
	12	理 アンプ・スピーカーの分解	13
8	23	理 おいしい実験 I	11
	30	理 アルヴェでスタディ I	10
9	6	理 太陽電池でマイク	10
	13	理 顕微鏡で見える小さな世界	8
	20	理 歯で音を聞く?	8
	27	社 日銀秋田支店でスタディ	14
10	4	理 住宅模型の製作 I	13
	11	理 ペットボトルで浄水	9
	18	理 住宅模型の製作 II	14
11	1	社 クイズでスタディ I	11
	8	理 びっくり浮沈子を作ろう	14
	15	理 使い捨てカイロを作ろう	16
	22	理 アルヴェでスタディ II	13
	29	社 クイズでスタディ II	13
12	6	理 ニセ科学と真の科学	13
1	17	理 静電気で動くモーター	10
	24	社 行ってみようチュニジア	12
	31	理 パイプ発電機で電気をつくる	13
2	7	理 地震と津波について	14
	14	社 裁判員制度について	12
	21	理 おいしい実験 II	15
	28	理 科学マジック	14

【カルチャー&アドベンチャー】

月	日	題材名	参加人数
5	27	IOクラブ①	16
	30	スポーツ1	9
6	3	IOクラブ②	20
	10	調理1	16
	13	スポーツ2	11
	17	IOクラブ③	19
	24	読み聞かせ	4
	27	スポーツ3	7
7	1	IOクラブ④	15
	4	スポーツ4	10
	8	ようこそ先輩	11
	11	スポーツ5	10
	15	夏のお茶会	13
8	22	スポーツ6	10
	26	IOクラブ⑤	13
	29	スポーツ7	8
9	2	校外学習事前	9
	12	スポーツ8	10
	16	PCに挑戦①	8
	30	スポーツフェスティバル	16
10	3	バステルアート	9
	7	スポーツ10	12
	17	ミュージックケア	13
	21	調理実習	15
	24	明德祭展示に向けて	12
	31	スポーツ12	13
11	4	PCに挑戦 ②	10
	11	IOクラブ⑦	15
	14	ミュージックケア	12
	18	国際交流	11
	25	スポーツ14(ボウリング)	17
	28	IOクラブ⑧	13
12	2	クリスマス音楽会に向けて	18
	9	クリスマス音楽会に向けて	21
1	16	ミュージックケア	9
	20	冬のお茶会	16
	27	IOクラブ⑨	10
2	3	PCに挑戦 ③	11
	6	スポーツ16	11
	10	調理	17
	20	スポーツ17	14
	24	芸術	10

斜体字はNPO法人「不登校を考える親の会」の担当による活動である。

資料5 各校の不登校対応(相談室・評価等)についてのアンケート集計

提出18校
(小学校1中学校17)

2011・8/5(金)
担任等連絡協議会
資料

18校の不登校児童生徒総数134名(内イオ入所者数49名 約37%)

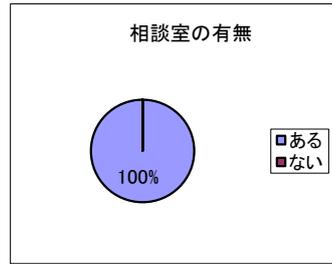
1 相談室等の運営に関して

(1)相談室の有無

ある	ない
18	0

相談室の名称

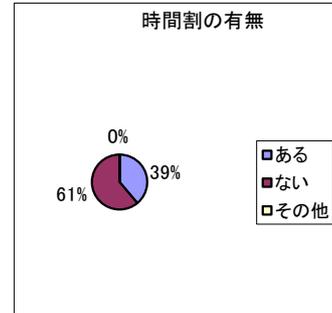
相談室	4	さわやか教室
やすらぎ	2	みどりの部屋
保健室	2	フレンズルーム
ふれあい	2	相談室・学習室
心の教室		談話室
ハートフルーム		ぶらっと



(2)時間割の有無

ある	ない	その他
7	11	0

コメントの内容
・監督の先生の教科に合わせた時間割で、基本は自学です。



○時間割の例

やすらぎ(A) 時間割

	月	火	水	木	金
1	国語 (新野)	国語 (新野)	理科 (小島先生)	国語 (新野)	国語 (新野)
2	音楽 (澤口先生)	数学 (坂+A先生)	社会 (山崎先生)	数学 (新藤先生)	美術 (中村先生)
3	英語 (藤井先生)	技・家 (藤井先生)	英語 (藤井先生)	英語 (藤井先生)	音楽 (藤井先生)
4	技・家 (藤井先生)	国語 (新野)	国語 (新野)	体育 (藤井先生)	体育 (藤井先生)
5	体育 (佐藤先生)	体育 (小原先生)	英丁 (新野)	音楽 (澤口先生)	英丁 (新野)
6	学活 (新野)	国語 (新野)	国語 (新野)	国語 (新野)	国語 (新野)

さわやか教室時間割(担当) 1期

	月	火	水	木	金
1	国語	体育	体育	国語	国語
2	社会	社会	社会	社会	社会
3	国語	国語	国語	国語	数学
4	国語	国語	自学	数学	伊藤
5	国語	国語	社会	国語	国語
6	国語	国語	国語	国語	国語

(正務) 時間割 (2011年7月1日～8月31日)

秋田県立城東中学校

学年	月	火	水	木	金
1	国語	体育	体育	国語	国語
2	社会	社会	社会	社会	社会
3	国語	国語	国語	国語	数学
4	国語	国語	自学	数学	伊藤
5	国語	国語	社会	国語	国語
6	国語	国語	国語	国語	国語

7997-9199409-29 Fax:01834237 2011. 7/25(金) 10:27 P.04/05

相談室担当者一覧 (1~6)

4月3日(水)～12月4日(水)

学年	月	A	B	C	D	E
1	8:40	○ 藤井	○ 高橋	○ 門脇	○ 門脇	○ 門脇
1	9:30	○ 佐藤	○ 千葉	○ 佐藤	○ 佐藤	○ 阿部
1	9:40	○ 藤井	○ 門脇	○ 門脇	○ 門脇	○ 門脇
1	10:30	○ 藤井	○ 南	○ 中村	○ 加賀	○ 加賀
1	10:40	○ 門脇	○ 長谷川	○ 門脇	○ 門脇	○ 門脇
1	11:30	○ 佐藤	○ 佐藤	○ 中村	○ 伊藤	○ 加賀
1	11:40	○ 中村	○ 門脇	○ 佐藤	○ 伊藤	○ 加賀
1	12:30	○ 山内	○ 小島	○ 藤井	○ 藤井	○ 山内
2	13:25	○ 門脇	○ 門脇	○ 門脇	○ 加賀	○ 佐藤
2	14:15	○ 佐藤	○ 南	○ 長谷川	○ 中村	○ 加賀
2	14:25	○ 門脇	○ 伊藤	○ 門脇	○ 門脇	○ 門脇
2	15:15	○ 佐藤	○ 加賀	○ 佐藤	○ 佐藤	○ 佐藤

7997-9199409-29 Fax:01834237 2011. 7/25(金) 10:28 P.05/05

相談室利用にあたって

秋田県立城東中学校 生徒指導部

1. 時間割について
 授業中の時間割は「A(月) B(火) C(水) D(木) E(金)」となっています。
 ・授業がある場合は、授業日と担任を記載してください。各時間の担当者様は3人～5人お任せします。
 ・行事など複数の事由により、授業時間を変更する場合は、曜日と曜日を交換して授業を行うことがあります。また、授業コマのみを交換することもあります。

2. 時間割担当者について
 ・学習を支援するにあたり、担当が1時間ぴったりという指導をするか、自学指導の形態にするかは、相談の上、子どもさんの事柄に合わせて行うようにしていただきます。
 ・都合によっては、対象生のお子さんとは別の先生について支援することができない場合もありますので、ご理解をお願いします。
 ※ 担当者登録や出席で不在のあるとき、
 ※ 校内の緊急事により担当者が学年の支援にあたる場合、
 ※ 担当者が欠席のあるとき、
 など、

3. 学習内容について
 ・学習支援の内容は、相談室の先生に合わせた支援となります。勉強したい科目の勉強を促していただく、担当が自分の専門科目以外でも支援できる場合がありますので、ご要望をお願いします。

4. お問い合わせ
 ・相談室利用をされて、気がついたことや改善すべき点がありましたら、現在の先生、または教育相談担当の先生が担任指導の担当までご連絡ください。可能な限り対応させていただきます。

(学校の電話番号) 018-834-9281

相談室利用について (日期 7/11~11/2)

秋田県立城東中学校 生徒指導部

1. 相談室利用の目的
 (1) 学習支援から以上の目的
 (2) 学習支援から以上の目的
 (3) 学習支援から以上の目的
 (4) 学習支援から以上の目的

2. 相談室利用の手続き
 (1) 相談室利用の手続き
 (2) 相談室利用の手続き
 (3) 相談室利用の手続き
 (4) 相談室利用の手続き

3. 相談室利用の注意事項
 (1) 相談室利用の注意事項
 (2) 相談室利用の注意事項
 (3) 相談室利用の注意事項
 (4) 相談室利用の注意事項

4. 相談室利用の連絡先

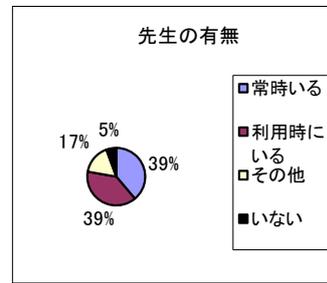
学年	月	火	水	木	金
1	国語	体育	体育	国語	国語
2	社会	社会	社会	社会	社会
3	国語	国語	国語	国語	数学
4	国語	国語	自学	数学	伊藤
5	国語	国語	社会	国語	国語
6	国語	国語	国語	国語	国語

(3)-a 先生の有無

常時いる	利用時にいる	その他	いない
7	7	3	1

その他の内容

- ・教育相談担当が対応するが、授業等で不在の場合は保健室で対応している。
- ・対応の先生はいる。
- ・生徒の登校時に対応。



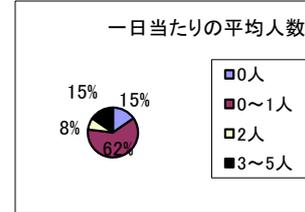
*1(2)で「時間割がない」と答えた11校中、10校に担当の先生がいる。1校は、相談室の利用者がいない。

(3)-b 1日当たりの平均人数

0人	0~1人	2人	3~5人	その他
2	8	1	2	5

その他の内容

- ・記載無し



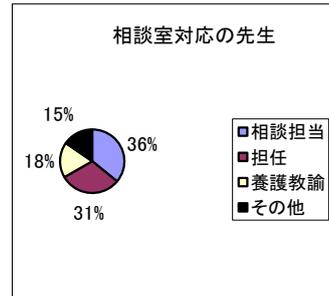
(4)相談室対応の先生

相談担当	担任	養護教諭	その他
14	12	7	6

複数回答

その他の内容

学年所属 3 学年主任
 教務 研究主任
 教科担任 生徒指導主事
 技能主事 空き時間の職員 2



(5)工夫及び困難点

○工夫していること

環境や教材等

- ・利用する生徒に応じた内容(相談・学習とも)を丁寧に扱うようにしている。
- ・担任を配置し、給食の世話など通常学級と同程度の指導をしている。
- ・生徒が入りやすい環境づくりをしている。
- ・保健室を含め4つの部屋があるので、学習しやすい部屋を生徒に選択させている。
- ・落ち着いて過ごせるような環境作りを心がけている。
- ・複数の生徒が登校し、利用する場合、しきりを使って、個室的空間を設けるようにしている。
- ・移動図書館。
- ・常時開放。
- ・学級や各学年の様子がわかるように掲示物を充実させるようにしている。
- ・保健室へ入室する他の生徒との接触を避けることができるように奥の個室を利用させている。仕切りを設け、机といすを一組ずつ準備し、学習できるようにしている。
- ・環境美化。

交流・ふれあい

- ・時間割に担当者を入れ、ふれあい担当だけでなくすべての教員が関わるようにしている。
- ・なるべく事情を詳しく知っている先生が対応にあたるようにしている。
- ・1月に1度は家庭訪問などで顔を出すようにする。

学習への対応

- ・時間割を作成し、9教科の教科担任が教科指導を可能な限りしている。
- ・朝、登校した段階でさわやか教室の時間割をもとに、何を学習するか、どう過ごすかを学習生徒が決定する。(自己決定の機会を設ける。)
- ・個人ファイルを持たせて、1日の振り返りや学習計画を記録させながら担当者がコメントを添えて励ましている。
- ・通常学級と同程度の指導をしている。
- ・問題集の設置。
- ・生徒の実態に応じたプリントを準備する。
- ・本年度対象の生徒はいないが、これまでは空き時間の先生を割り当てて時間割を作成し授業を行った。
- ・時間割を組み、教員も配置することによって安心感を持たせ、見通しをもって学習できるようにしている。
- ・監督時間割の作成。

連携・対応等

- ・相談室対応のため全職員が関わる時間割を作成している(生徒がいつ登校しても対応できるように)。
- ・相談室利用記録の活用。

○困難を感じていること

職員数等

- ・空きの先生が対応しているため、誰も学年で対応できない時がある。
- ・相談室担当者が教える教科が限られているため、評価が難しい。
- ・生徒の登校が不定期なので、担当者の計画を立てることが難しい。
- ・人数が多い場合、空き時間の先生での対応では、対応しきれなくなる。3年前の十数人という時には、自学という場合もあった。
- ・一緒にの部屋にされない生徒がいる場合、対応できる職員がいない場合もあり困っている。
- ・時間割上で空いている教員が対応するため、教科指導に偏りが出てくる。

生徒の状況等

- ・生徒の利用が定期的、継続的ではないため、計画的に進めることができずにいる。
- ・技能教科にどのようにして取り組ませるか。
- ・自宅にいる不登校生の心を相談室に向かわせること。

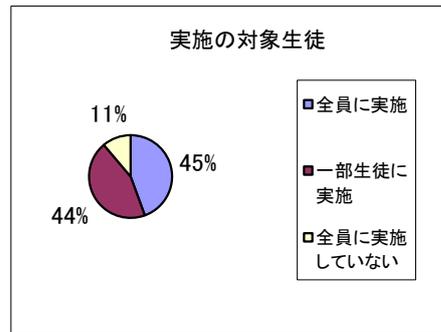
その他

- ・基本的に本人が学習したい内容を決めて取り組ませているが、評価が難しい。
- ・保健室の先生に頼ってしまっている部分がある。
- ・特になし 2

2 不登校児童生徒の評価に関して

(1)実施の対象児童生徒

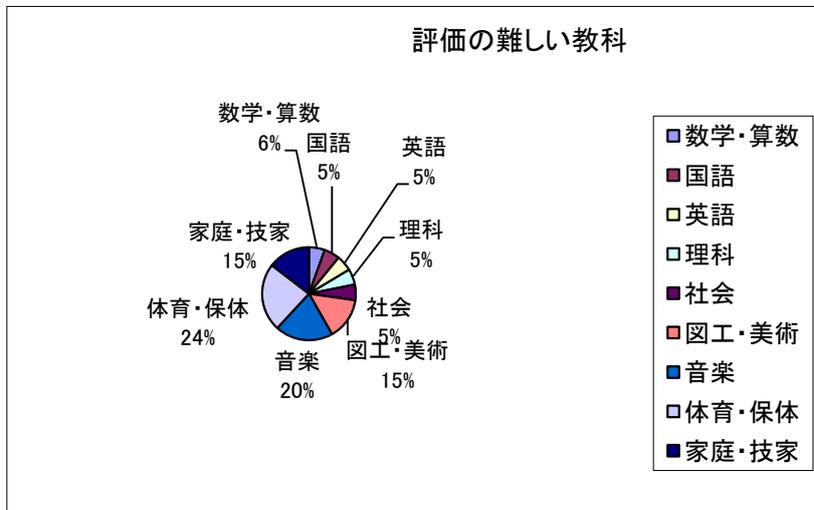
全員に実施	一部生徒に実施	全員に実施していない
8	8	2



(2)評価の難しい教科

数学・算数	3
国語	3
英語	3
理科	3
社会	3
図工・美術	8
音楽	11
体育・保体	13
家庭・技家	8

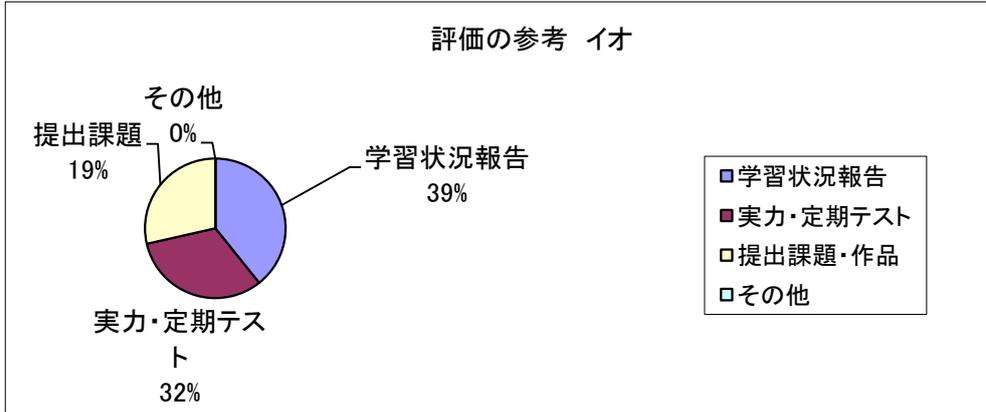
複数回答



(3)評価の参考 -a イオ

学習状況報告	実力・定期テスト	提出課題・作品	その他
11	9	8	0

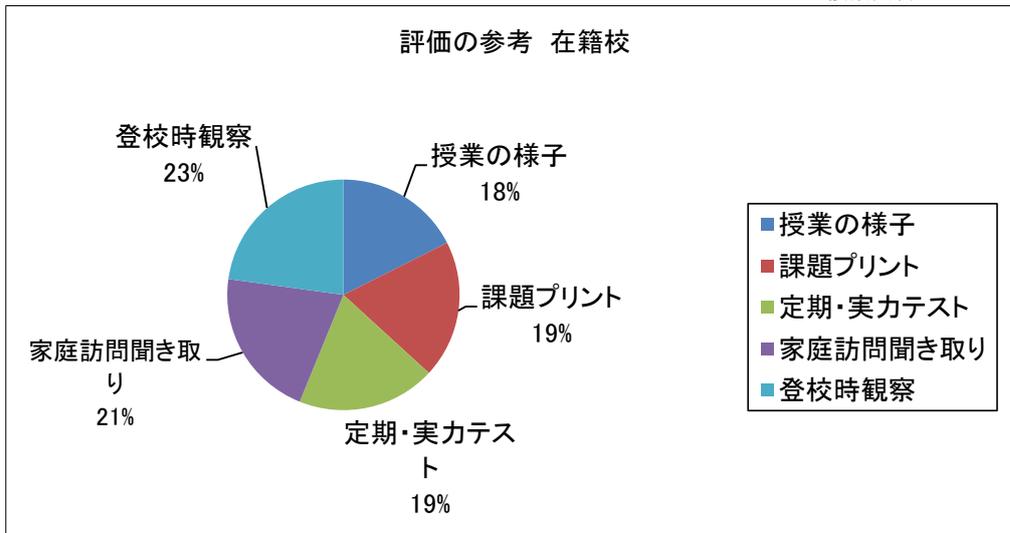
複数回答



(3)評価の参考 -b 在籍校

授業の様子	課題プリント	定期・実力テスト	家庭訪問聞き取り	登校時観察
10	11	11	12	13

複数回答



(4)工夫及び困難点

○工夫していること

課題の提出等

- ・登校できずにいる生徒には提出用の課題を別に用意することもある。(授業で用いたもの以外)
- ・複数の教師が指導をする場合、連絡ファイルを作成し、前時の指導内容がそれを見ればわかるようにしている(数)
- ・生徒の実態に応じたプリントを準備する。
- ・授業で使用したワークやプリントは家庭に届け、家でやらせて学校で指導する。
- ・授業に参加、授業で使ったプリントやワーク等の提出をして、つけることのできるものをつける。

評価

- ・進路を考え、適切な評価ができるよう資料をそろえようとしている。
- ・生徒が努力したことをプラスに評価するようにしている。
- ・課題を設定したり、テストの結果やプリント、作品等でできるだけ評価するようにしている。
- ・基本的に個人内評価を主としている。
- ・相談室で学習したワーク類やプリントもできるだけ評価するようにしている。
- ・できるだけ9教科すべてに評定がつくように学習課題を与えて評価している。
- ・意欲面を重視するようにしている。
- ・プリントやワークなどやったものは教科担任に提出して、評価に役立ててもらっている。
- ・本人、保護者ともに評価をしてほしいという希望をもっている。各教科で課題を与え、提出してもらい、評価を行うようにしている。空き時間などを活用し、できるだけ指導もするように努めている。

その他

- ・特になし

○困難を感じていること

技能教科の評価

- ・技能教科は作品やレポートの提出がないと評価できない。
- ・評価する資料が不足。
- ・技能教科の評価のあり方(教科担任との連携)。

評価材料不足

- ・学習の様子(成果)を教科担任や担任が実際に目にすることができない事からについて評価しづらい。
- ・課題を明確にしてもなかなか取り組めない。
- ・作品を完成させて提出することが難しい。
- ・できるだけ全員に評価をしたいと考えているが、全く登校できない生徒に対して評価が難しい。
- ・学校に全く登校しない生徒の評価(家でも学習していない生徒)。
- ・評価する際の資料となるものの数が少ないこと。
- ・評価材料が少なく、毎日登校して授業を受けている生徒と同じ観点では評価できず困っている。

評価規準・評価の意義等

- ・評価基準を他の生徒と同一にすることが困難。
- ・一部分を見て評価することが適切であるのかどうか。
- ・評価基準がどうしてもあいまいになってしまう。
- ・教室で毎日登校している生徒と同じように評価することはできないと思うが、どこまで配慮した評価が可能なのか判断に迷う。
- ・課題の提出・未提出等もあり、どの生徒も評価できる状況とはいかない。
- ・適切な評価ができているかということ。

各校の不登校対応のアンケート集計から見てきたこと

2011/8/5在籍校担任等連絡協議会資料

1 相談室等の運営に関して

- (1)在籍校18校のすべてが相談室を設置している。
- (2)相談室に時間割を設定しているのは約40%の7校で,昨年のアンケート実施時よりも減少している。
- (3)常時と利用時,その他を合わせると95%の17校に相談室対応の先生がいる。
- (4)相談室の対応は相談担当,担任,養護教諭など複数の先生が関わっている。

学年主任を含めると学年所属の先生が一番多く,校長先生も関わっている。

(5)各校の工夫及び困難点

- ①相談室の環境への配慮(落ち着けるスペースの確保・学習スペースの設置・問題集の設置など)。
 - ②いろいろな先生たちと交流する機会をもつ。
 - ③学習に取り組めるような工夫
(時間割の設定・実態に応じたプリントの準備・教科担任による指導・学習の記録の活用など)。
 - ④連携・対応の工夫(相談室利用記録の活用)。
-
- ①職員数の不足等により,不登校生徒に十分な対応ができない。
 - ②生徒の登校,意欲の違いなどが大きく,きめ細かな対応が難しい。
 - ③保健室の先生に頼ってしまっている部分がある。

2 不登校児童生徒の評価に関して

- (1)全員及び一部生徒への実施を合わせると89%(16校)の学校が評価を実施している。
- (2)技能教科の評価が難しい学校が多い。保健体育13校,音楽11校,技術家庭8校,美術8校である。
- (3)評価の参考としては,在籍校では,登校時観察23%,家庭訪問時の聞き取り21%,定期・実力テスト21%,課題プリント19%,授業の様子18%の順であり,イオでは,学習状況報告が4割近くを占めている。

(4)各校の工夫及び困難点

- ①実態に応じたプリントの準備。
- ②評価の工夫。努力や意欲を認める多面的な評価。
- ③授業で使ったワークやプリントを家庭に届け,学校で指導。
- ④9教科すべてに評定がつくように学習課題を与える。

- ①技能教科の評価が「困難」である。
- ②どの教科も評価の材料が少ない。
- ③評価規準に基づく評価が困難である。

資料6

アンケートから見たスペースイオ

実施期間 平成23年12月26日～平成24年1月13日

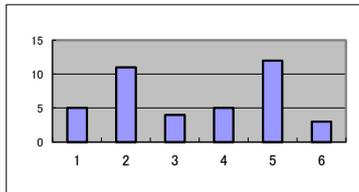
送付数	回収	回収率
生徒69	41	59%
保護者69	41	59%

(1) 児童生徒のアンケート結果 *回答のない項目を含む。

不登校のきっかけと理由

Q1 不登校のきっかけと思われることは何ですか？(最も当てはまるものを一つ)

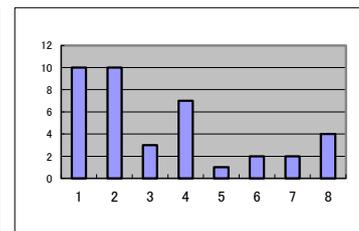
選択項目		
1 いじめられたこと	5	13%
2 友人関係がうまくいかなかったこと	11	27%
3 勉強がわからなくなったこと	4	10%
4 病気で休んだこと	5	13%
5 よくわからない	12	30%
6 その他	3	7%
合計	41	100%



その他の内容
 ・ストレス
 ・体調がよくない
 ・朝、起きられない
 ・学習環境が苦痛

Q2 学校に行けなかった主な理由は何ですか？(最も当てはまるものを一つ)

1 学校の雰囲気がいやだ	10	25%
2 クラスの生徒がどう思っているか気になる	10	25%
3 勉強についていけないか不安だ	3	9%
4 特定の生徒との折り合いが悪い	7	18%
5 学校の先生との折り合いが悪い	1	3%
6 家にいる方が楽しい	2	5%
7 病気のため	2	5%
8 その他	4	10%
合計	40	100%



その他の内容
 ・学校というくりが苦手
 ・学校で腹痛がおこることが不安
 ・休みすぎて行きづらくなった
 ・わからない

【今年度の結果】

・「不登校のきっかけ」が「友人関係」である生徒が28%で、昨年度よりは4ポイント低くなっている。「病気で休んだこと」と「よくわからない」がそれぞれ昨年度比で7ポイントおよび8ポイント増えている。

・「学校に行けなかった理由」について「特定の生徒との折り合いが悪い」をあげた生徒が、昨年度の2倍に増えている。

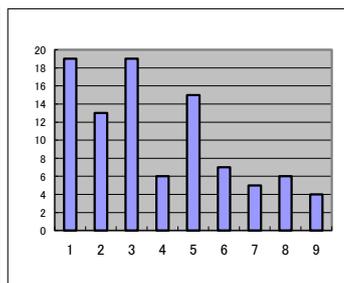
【今後の課題】

・今年度の傾向として、「不登校のきっかけ」が「よくわからない」と答えた生徒が一番多かった。「学校の雰囲気がいやだ」「クラスの子がどう思っているか気になる」ことから次第に登校意欲が減少して登校しなくなった生徒が多いことがうかがえる。また、「学校に行けなかった主な理由」として「特定の生徒との折り合い」をあげた生徒が昨年度の2倍のポイントになっている。このようなことから、生徒に関わる職員同士が友人関係などの情報を共有し、本人の特性や状況を理解した上で、時には専門家のアドバイスを受れたり、個別に面談したりするなどの対応をすることが必要と思われる。

スペース・イオの学習支援等について

Q3 スペース・イオを利用してよかったことは何ですか？(複数回答可)

1 勉強の遅れを取り戻すことができた	19	19%
2 友人ができた	13	14%
3 いろいろな体験ができた	19	20%
4 自分に自信がもてるようになった	6	7%
5 進路について考えられるようになった	15	16%
6 先生との交流ができた	7	8%
7 学校に復帰する気持ちが生まれた	5	5%
8 家の中での会話が増えた	6	7%
9 その他	4	4%
合計	95	100%

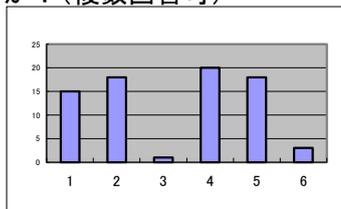


その他の内容
 ・今までの自分から立ち直ることができた
 ・勉強の癖が少なくなった

学校復帰について

Q4 学校に復帰する際、心配なことは何ですか？（複数回答可）

1友人関係がうまくいか	15	20%
2勉強について行けるか	18	23%
3先生がどう対応してくれるか	1	1%
4学校のリズムについていけるか	20	28%
5特別な目で見られないか	18	24%
6その他	3	4%
合計	75	100%

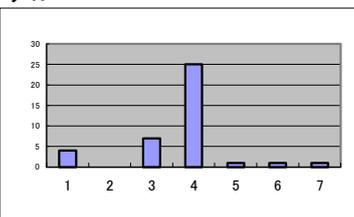


その他の内容

・行く気がないから心配してない

Q5 学校復帰についてどのように考えていますか

1学校の教室で授業を受けるつもりである	4	10%
2はじめは保健室・別室登校などから始めたい	0	0%
3イオに通いながら学校復帰をめざしたい	7	16%
4今は無理だがいずれ学校復帰するつもりだ	25	65%
5学校復帰はまだ考えられない	1	3%
6学校に復帰するつもりはない	1	3%
7その他	1	3%
合計	39	100%

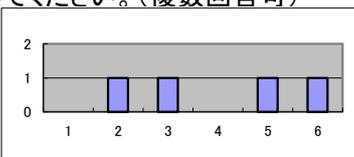


その他の内容

・考え中

Q6 Q6で「5」「6」と答えた人は、理由を選んでください。（複数回答可）

1友人関係がうまくいかないだろう	0	0%
2勉強に自信がない	1	25%
3学級の雰囲気がいやだ	1	25%
4学校のペースにはついていけないだろう	0	0%
5いじめられそうで怖い	1	25%
6その他	1	25%
合計	4	100%

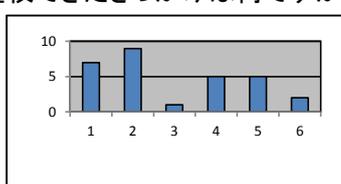


その他の内容

・理由はない

Q7 1回でも登校できた人にお聞きします。登校できたきっかけは何ですか。

1担任(学校)からの呼びかけ	7	24%
2定期・実カテストの受検	10	32%
3各種検定(英検・漢検等)の受検	1	2%
4行事	5	17%
5部活	5	17%
6その他	2	7%
合計	30	100%

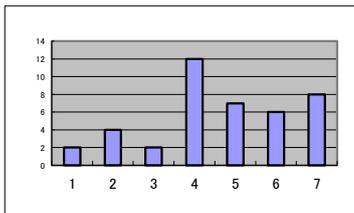


その他の内容

・親友との約束

Q8 学校に対する要望は何ですか。

1家庭訪問を増やしてほしい	2	4%
2勉強を教えてほしい	4	10%
3登校を誘いかけてほしい	2	4%
4学校の情報をこまめに教えてほしい	12	29%
5学校にもイオのような場所を作ってほしい	7	17%
6しばらくそっとしておいてほしい	6	15%
7その他	8	20%
合計	41	100%



その他の内容

・家庭訪問を別の教師に変えてほしい

・支えてもらいたい

・今のままでよい 2

【今年度の結果】

・Q4:復帰する際、心配なことについて昨年度と違ったところは、「特別な目で見られないか」の項目が昨年度の2倍以上に増えている点である。

・Q5:91%が学校復帰の意志を示している(昨年度は87%)。「今は無理だがいずれ学校復帰するつもりだ」では高校入学を機に新しい環境で復帰したいと考えている生徒が96%をしめる。「復帰はまだ考えられない、復帰するつもりはない」と答えた生徒の割合はほぼ昨年度と同じである。

・Q6:「復帰はまだ考えられない、復帰するつもりはない」の理由として、「学校のペース」をあげた生徒が昨年度は50%であったが、今年度は0%であった。一方、昨年度0%であった「勉強に自信がない」は25%であった。

・「そっとしておいてほしい」と「その他」の生徒は、昨年度とほぼ同じ数値である。

【今後の課題】

・学校復帰を希望している生徒へ勉強面での支援をさらに充実させていきたい。また、相談タイムやスクールカウンセラーとの面談などを活用することによって精神面でのケアを図りたい。また、「高校入学を機に復帰」と答えている生徒が多い点から、学校側には「修学旅行」、「校外学習」などの何らかの「きっかけ」を多く作ってもらうよう働きかけ、中学校1、2年生での早めの学校復帰を目指したい。

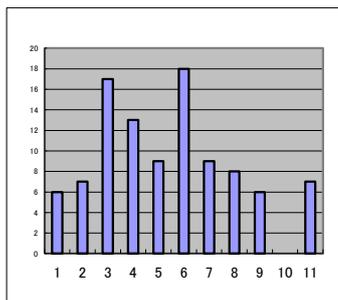
・「学校復帰は考えていない」生徒であっても学校のことを気にかけて、情報を得たいと思っている。根気強い情報提供などで、生徒との関係を保ち続けることが信頼関係を育て、登校の意欲や改善に結びついて行くと思われる。

(2) 保護者のアンケート結果

子どもの変容

Q1スペース・イオに入所してから子どもさんの変化はありましたか？当てはまるものを選んでください。(複数回答可)

1生活習慣が改善された	6	6%
2家族との会話が 많아 なった	7	7%
3表情が明るくなった	17	17%
4友人の話をするようになった	13	13%
5学校のことを話題にするようになった	9	9%
6外出することが 많아 なった	18	18%
7家族以外の人も会うようになった	9	9%
8学校の先生と会う時間が 많아 なった	8	8%
9あまり変化はない	6	6%
10マイナスの変化の方が多い	0	0%
11その他	7	7%
合計	100	100%



その他の内容

- ・学習のことを話すようになった
- ・自分に自信がもてた
- ・兄弟げんかが減った
- ・学習意欲が出た
- ・校長室へ登校できるようになった
- ・メールで会話するようになった
- ・家庭学習の時間が増えた

【今年度の結果】

・昨年度と同様の傾向を示し、約94%の保護者は改善したと答えている。「その他」の内容もプラス面での記載であった。

・「あまり変化はない」と答えた場合は、保護者が学校復帰を強く希望しているなどの子どもに求めるレベルが高い場合であったりIT学習を継続して行っている状態であっても目に見える変

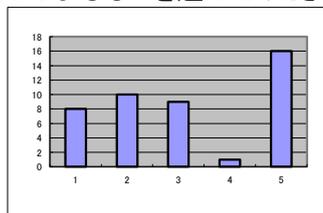
【今後の課題】

・IT学習から来所へとつなげるための働きかけの工夫が課題である。

学校とのかかわり

Q2現在の学校とのかかわりはどうですか？あてはまるものを選んでください。(複数回答可)

1週1回程度家庭訪問がある	8	18%
2月に1～2回程度家庭訪問がある	10	23%
3家庭訪問はないが電話等での連絡がある	9	20%
4家庭訪問や連絡はほとんどない	1	2%
5その他	16	37%
合計	44	100%

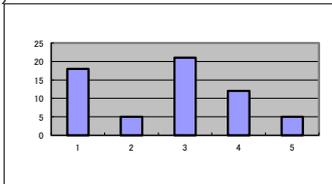


その他の内容

- ・学校以外のところでの面談
- ・学校で面談 ・部活
- ・保護者学校訪問
- ・必要時電話
- ・毎日登校している
- ・テストの時登校

Q3学校からの誘いかけはありますか？(複数回答可)

1行事やテストなどへの誘いかけがある	18	30%
2保健室や相談室への登校の誘いかけがある	5	8%
3三者面談や進路相談などへの誘いかけがある	21	34%
4学校からの誘いかけはほとんどない	12	20%
5その他	5	8%
合計	61	100%



その他の内容

- ・登校できるようになる前は熱心に誘ってくれていた
- ・本人の負担を考えた誘い方
- ・用事があるときのみ

【今年度の結果】

・「その他」を含めるとほぼ90%の児童生徒に、学校側が何らかの誘いかけを行い、保護者も在籍校とのかかわりを意識し、受け止めている。

・「学校からの誘いかけはほとんどない」と答えたケースでも、テストの誘いかけや必要に応じてのかかわりはあった。

【今後の課題】

・生徒のニーズに合った支援ができるように、担任や教科担任、相談担当、生徒指導、スクールカウンセラーなどが一堂に会して話し合う場をもつような工夫。

・中卒者の場合は、中学校卒業と同時に日常的な支援がなくなってしまうが、保護者側から在籍校に積極的にかかわり、相談や情報提供を求めていくことで、進路などの本人にとって必要な情報が入るようだ。そうしないと、なかなか進学に結びつかず家庭にいる状態が長引くことになると思われる。

資料4

スタディワーク及びカルチャー&アドベンチャー実施記録(2月末まで)

【スタディワーク】

月	日	題材名	参加人数
5	31	理 いろいろな飛行物体	10
6	7	社 千秋公園でスタディ	11
	14	理 水や氷でレンズを作る	7
	21	社 赤レンガ館でスタディ	9
	28	理 真空保存容器で圧力を学ぶ	13
7	5	社 市民市場でスタディ	12
	12	理 アンプ・スピーカーの分解	13
8	23	理 おいしい実験 I	11
	30	理 アルヴェでスタディ I	10
9	6	理 太陽電池でマイク	10
	13	理 顕微鏡で見える小さな世界	8
	20	理 歯で音を聞く?	8
	27	社 日銀秋田支店でスタディ	14
10	4	理 住宅模型の製作 I	13
	11	理 ペットボトルで浄水	9
	18	理 住宅模型の製作 II	14
11	1	社 クイズでスタディ I	11
	8	理 びっくり浮沈子を作ろう	14
	15	理 使い捨てカイロを作ろう	16
	22	理 アルヴェでスタディ II	13
	29	社 クイズでスタディ II	13
12	6	理 ニセ科学と真の科学	13
1	17	理 静電気で動くモーター	10
	24	社 行ってみようチュニジア	12
	31	理 パイプ発電機で電気をつくる	13
2	7	理 地震と津波について	14
	14	社 裁判員制度について	12
	21	理 おいしい実験 II	15
	28	理 科学マジック	14

【カルチャー&アドベンチャー】

月	日	題材名	参加人数
5	27	IOクラブ①	16
	30	スポーツ1	9
6	3	IOクラブ②	20
	10	調理1	16
	13	スポーツ2	11
	17	IOクラブ③	19
	24	読み聞かせ	4
	27	スポーツ3	7
7	1	IOクラブ④	15
	4	スポーツ4	10
	8	ようこそ先輩	11
	11	スポーツ5	10
	15	夏のお茶会	13
8	22	スポーツ6	10
	26	IOクラブ⑤	13
	29	スポーツ7	8
9	2	校外学習事前	9
	12	スポーツ8	10
	16	PCに挑戦①	8
	30	スポーツフェスティバル	16
10	3	バステルアート	9
	7	スポーツ10	12
	17	ミュージックケア	13
	21	調理実習	15
	24	明德祭展示に向けて	12
	31	スポーツ12	13
11	4	PCに挑戦 ②	10
	11	IOクラブ⑦	15
	14	ミュージックケア	12
	18	国際交流	11
	25	スポーツ14(ボウリング)	17
	28	IOクラブ⑧	13
12	2	クリスマス音楽会に向けて	18
	9	クリスマス音楽会に向けて	21
1	16	ミュージックケア	9
	20	冬のお茶会	16
	27	IOクラブ⑨	10
2	3	PCに挑戦 ③	11
	6	スポーツ16	11
	10	調理	17
	20	スポーツ17	14
	24	芸術	10

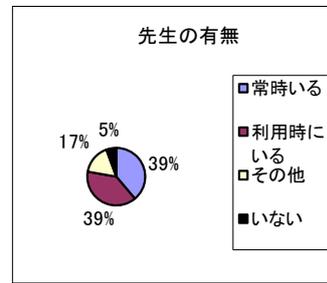
斜体字はNPO法人「不登校を考える親の会」の担当による活動である。

(3)-a 先生の有無

常時いる	利用時にいる	その他	いない
7	7	3	1

その他の内容

- ・教育相談担当が対応するが、授業等で不在の場合は保健室で対応している。
- ・対応の先生はいる。
- ・生徒の登校時に対応。



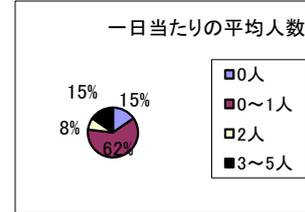
*1(2)で「時間割がない」と答えた11校中、10校に担当の先生がいる。1校は、相談室の利用者がいない。

(3)-b 1日当たりの平均人数

0人	0~1人	2人	3~5人	その他
2	8	1	2	5

その他の内容

- ・記載無し



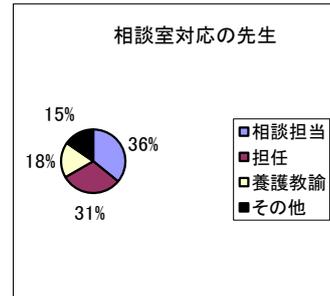
(4)相談室対応の先生

相談担当	担任	養護教諭	その他
14	12	7	6

複数回答

その他の内容

学年所属 3 学年主任
 教務 研究主任
 教科担任 生徒指導主事
 技能主事 空き時間の職員 2



(5)工夫及び困難点

○工夫していること

環境や教材等

交流・ふれあい

学習への対応

連携・対応等

- ・利用する生徒に応じた内容(相談・学習とも)を丁寧に扱うようにしている。
- ・担任を配置し、給食の世話など通常学級と同程度の指導をしている。
- ・生徒が入りやすい環境づくりをしている。
- ・保健室を含め4つの部屋があるので、学習しやすい部屋を生徒に選択させている。
- ・落ち着いて過ごせるような環境作りを心がけている。
- ・複数の生徒が登校し、利用する場合、しきりを使って、個室的空間を設けるようにしている。
- ・移動図書館。
- ・常時開放。
- ・学級や各学年の様子がわかるように掲示物を充実させるようにしている。
- ・保健室へ入室する他の生徒との接触を避けることができるように奥の個室を利用させている。仕切りを設け、机といすを一組ずつ準備し、学習できるようにしている。
- ・環境美化。
- ・時間割に担当者を入れ、ふれあい担当だけでなくすべての教員が関わるようにしている。
- ・なるべく事情を詳しく知っている先生が対応にあたるようにしている。
- ・1月に1度は家庭訪問などで顔を出すようにする。
- ・時間割を作成し、9教科の教科担任が教科指導を可能な限りしている。
- ・朝、登校した段階でさわやか教室の時間割をもとに、何を学習するか、どう過ごすかを学習生徒が決定する。(自己決定の機会を設ける。)
- ・個人ファイルを持たせて、1日の振り返りや学習計画を記録させながら担当者がコメントを添えて励ましている。
- ・通常学級と同程度の指導をしている。
- ・問題集の設置。
- ・生徒の実態に応じたプリントを準備する。
- ・本年度対象の生徒はいないが、これまでは空き時間の先生を割り当てて時間割を作成し授業を行った。
- ・時間割を組み、教員も配置することによって安心感を持たせ、見通しをもって学習できるようにしている。
- ・監督時間割の作成。
- ・相談室対応のため全職員が関わる時間割を作成している(生徒がいつ登校しても対応できるように)。
- ・相談室利用記録の活用。

○困難を感じていること

職員数等

- ・空きの先生が対応しているため、誰も学年で対応できない時がある。
- ・相談室担当者が教える教科が限られているため、評価が難しい。
- ・生徒の登校が不定期なので、担当者の計画を立てることが難しい。
- ・人数が多い場合、空き時間の先生での対応では、対応しきれなくなる。3年前の十数人という時には、自学という場合もあった。
- ・一緒にの部屋にされない生徒がいる場合、対応できる職員がいない場合もあり困っている。
- ・時間割上で空いている教員が対応するため、教科指導に偏りが出てくる。

生徒の状況等

- ・生徒の利用が定期的、継続的ではないため、計画的に進めることができずにいる。
- ・技能教科にどのようにして取り組ませるか。
- ・自宅にいる不登校生の心を相談室に向かわせること。

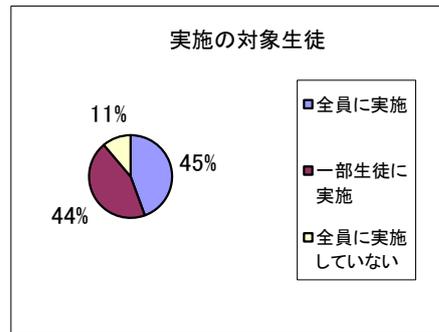
その他

- ・基本的に本人が学習したい内容を決めて取り組ませているが、評価が難しい。
- ・保健室の先生に頼ってしまっている部分がある。
- ・特になし 2

2 不登校児童生徒の評価に関して

(1)実施の対象児童生徒

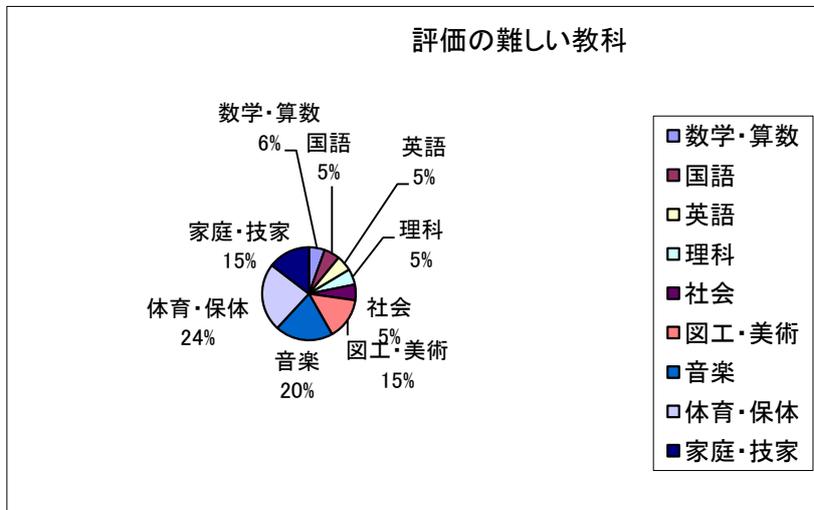
全員に実施	一部生徒に実施	全員に実施していない
8	8	2



(2)評価の難しい教科

数学・算数	3
国語	3
英語	3
理科	3
社会	3
図工・美術	8
音楽	11
体育・保体	13
家庭・技家	8

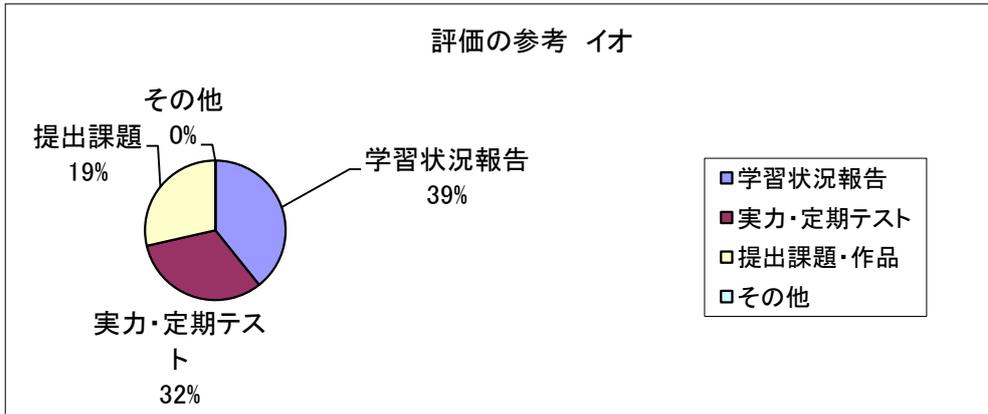
複数回答



(3)評価の参考 -a イオ

学習状況報告	実力・定期テスト	提出課題・作品	その他
11	9	8	0

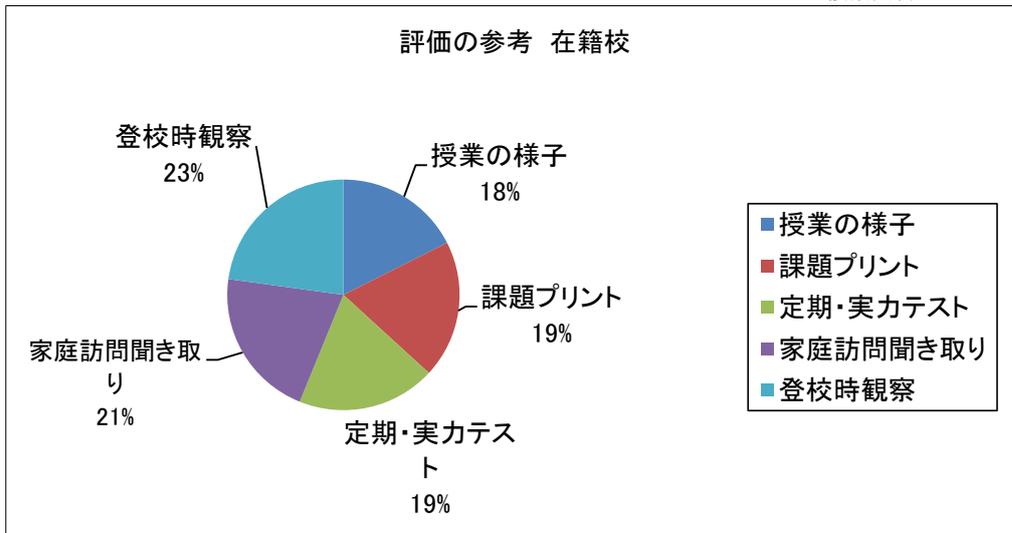
複数回答



(3)評価の参考 -b 在籍校

授業の様子	課題プリント	定期・実力テスト	家庭訪問聞き取り	登校時観察
10	11	11	12	13

複数回答



(4)工夫及び困難点

○工夫していること

課題の提出等

- ・登校できずにいる生徒には提出用の課題を別に用意することもある。(授業で用いたもの以外)
- ・複数の教師が指導をする場合、連絡ファイルを作成し、前時の指導内容がそれを見ればわかるようにしている(数)
- ・生徒の実態に応じたプリントを準備する。
- ・授業で使用したワークやプリントは家庭に届け、家でやらせて学校で指導する。
- ・授業に参加、授業で使ったプリントやワーク等の提出をして、つけることのできるものをつける。

評価

- ・進路を考え、適切な評価ができるよう資料をそろえようとしている。
- ・生徒が努力したことをプラスに評価するようにしている。
- ・課題を設定したり、テストの結果やプリント、作品等でできるだけ評価するようにしている。
- ・基本的に個人内評価を主としている。
- ・相談室で学習したワーク類やプリントもできるだけ評価するようにしている。
- ・できるだけ9教科すべてに評定がつくように学習課題を与えて評価している。
- ・意欲面を重視するようにしている。
- ・プリントやワークなどやったものは教科担任に提出して、評価に役立ててもらっている。
- ・本人、保護者ともに評価をしてほしいという希望をもっている。各教科で課題を与え、提出してもらい、評価を行うようにしている。空き時間などを活用し、できるだけ指導もするように努めている。

その他

- ・特になし

○困難を感じていること

技能教科の評価

- ・技能教科は作品やレポートの提出がないと評価できない。
- ・評価する資料が不足。
- ・技能教科の評価のあり方(教科担任との連携)。

評価材料不足

- ・学習の様子(成果)を教科担任や担任が実際に目にすることができない事からについて評価しづらい。
- ・課題を明確にしてもなかなか取り組めない。
- ・作品を完成させて提出することが難しい。
- ・できるだけ全員に評価をしたいと考えているが、全く登校できない生徒に対して評価が難しい。
- ・学校に全く登校しない生徒の評価(家でも学習していない生徒)。
- ・評価する際の資料となるものの数が少ないこと。
- ・評価材料が少なく、毎日登校して授業を受けている生徒と同じ観点では評価できず困っている。

評価規準・評価の意義等

- ・評価基準を他の生徒と同一にすることが困難。
- ・一部分を見て評価することが適切であるのかどうか。
- ・評価基準がどうしてもあいまいになってしまう。
- ・教室で毎日登校している生徒と同じように評価することはできないと思うが、どこまで配慮した評価が可能なのか判断に迷う。
- ・課題の提出・未提出等もあり、どの生徒も評価できる状況とはいかない。
- ・適切な評価ができているかということ。

各校の不登校対応のアンケート集計から見てきたこと

2011/8/5在籍校担任等連絡協議会資料

1 相談室等の運営に関して

- (1)在籍校18校のすべてが相談室を設置している。
- (2)相談室に時間割を設定しているのは約40%の7校で,昨年のアンケート実施時よりも減少している。
- (3)常時と利用時,その他を合わせると95%の17校に相談室対応の先生がいる。
- (4)相談室の対応は相談担当,担任,養護教諭など複数の先生が関わっている。

学年主任を含めると学年所属の先生が一番多く,校長先生も関わっている。

(5)各校の工夫及び困難点

- ①相談室の環境への配慮(落ち着けるスペースの確保・学習スペースの設置・問題集の設置など)。
 - ②いろいろな先生たちと交流する機会をもつ。
 - ③学習に取り組めるような工夫
(時間割の設定・実態に応じたプリントの準備・教科担任による指導・学習の記録の活用など)。
 - ④連携・対応の工夫(相談室利用記録の活用)。
-
- ①職員数の不足等により,不登校生徒に十分な対応ができない。
 - ②生徒の登校,意欲の違いなどが大きく,きめ細かな対応が難しい。
 - ③保健室の先生に頼ってしまっている部分がある。

2 不登校児童生徒の評価に関して

- (1)全員及び一部生徒への実施を合わせると89%(16校)の学校が評価を実施している。
- (2)技能教科の評価が難しい学校が多い。保健体育13校,音楽11校,技術家庭8校,美術8校である。
- (3)評価の参考としては,在籍校では,登校時観察23%,家庭訪問時の聞き取り21%,定期・実力テスト21%,課題プリント19%,授業の様子18%の順であり,イオでは,学習状況報告が4割近くを占めている。

(4)各校の工夫及び困難点

- ①実態に応じたプリントの準備。
 - ②評価の工夫。努力や意欲を認める多面的な評価。
 - ③授業で使ったワークやプリントを家庭に届け,学校で指導。
 - ④9教科すべてに評定がつくように学習課題を与える。
-
- ①技能教科の評価が「困難」である。
 - ②どの教科も評価の材料が少ない。
 - ③評価規準に基づく評価が困難である。

資料6

アンケートから見たスペースイオ

実施期間 平成23年12月26日～平成24年1月13日

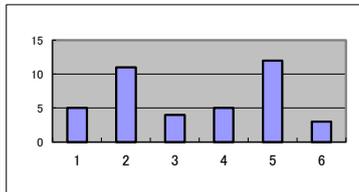
送付数	回収	回収率
生徒69	41	59%
保護者69	41	59%

(1) 児童生徒のアンケート結果 *回答のない項目を含む。

不登校のきっかけと理由

Q1 不登校のきっかけと思われることは何ですか？(最も当てはまるものを一つ)

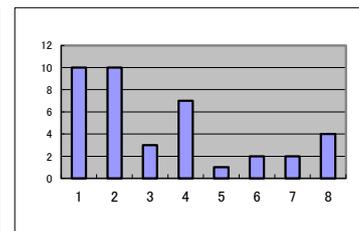
選択項目		
1 いじめられたこと	5	13%
2 友人関係がうまくいかなかったこと	11	27%
3 勉強がわからなくなったこと	4	10%
4 病気で休んだこと	5	13%
5 よくわからない	12	30%
6 その他	3	7%
合計	41	100%



その他の内容
 ・ストレス
 ・体調がよくない
 ・朝、起きられない
 ・学習環境が苦痛

Q2 学校に行けなかった主な理由は何ですか？(最も当てはまるものを一つ)

1 学校の雰囲気がいやだ	10	25%
2 クラスの生徒がどう思っているか気になる	10	25%
3 勉強についていけないか不安だ	3	9%
4 特定の生徒との折り合いが悪い	7	18%
5 学校の先生との折り合いが悪い	1	3%
6 家にいる方が楽しい	2	5%
7 病気のため	2	5%
8 その他	4	10%
合計	40	100%



その他の内容
 ・学校というくりが苦手
 ・学校で腹痛がおこることが不安
 ・休みすぎて行きづらくなった
 ・わからない

【今年度の結果】

・「不登校のきっかけ」が「友人関係」である生徒が28%で、昨年度よりは4ポイント低くなっている。「病気で休んだこと」と「よくわからない」がそれぞれ昨年度比で7ポイントおよび8ポイント増えている。

・「学校に行けなかった理由」について「特定の生徒との折り合いが悪い」をあげた生徒が、昨年度の2倍に増えている。

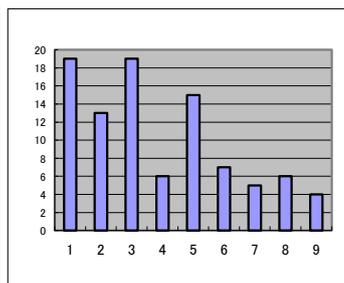
【今後の課題】

・今年度の傾向として、「不登校のきっかけ」が「よくわからない」と答えた生徒が一番多かった。「学校の雰囲気がいやだ」「クラスの生徒がどう思っているか気になる」ことから次第に登校意欲が減少して登校しなくなった生徒が多いことがうかがえる。また、「学校に行けなかった主な理由」として「特定の生徒との折り合い」をあげた生徒が昨年度の2倍のポイントになっている。このようなことから、生徒に関わる職員同士が友人関係などの情報を共有し、本人の特性や状況を理解した上で、時には専門家のアドバイスを受れたり、個別に面談したりするなどの対応をすることが必要と思われる。

スペース・イオの学習支援等について

Q3 スペース・イオを利用してよかったことは何ですか？(複数回答可)

1 勉強の遅れを取り戻すことができた	19	19%
2 友人ができた	13	14%
3 いろいろな体験ができた	19	20%
4 自分に自信がもてるようになった	6	7%
5 進路について考えられるようになった	15	16%
6 先生との交流ができた	7	8%
7 学校に復帰する気持ちが生まれた	5	5%
8 家の中での会話が増えた	6	7%
9 その他	4	4%
合計	95	100%

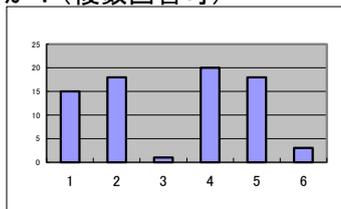


その他の内容
 ・今までの自分から立ち直ることができた
 ・勉強の癖が少なくなった

学校復帰について

Q4 学校に復帰する際、心配なことは何ですか？（複数回答可）

1友人関係がうまくいか	15	20%
2勉強について行けるか	18	23%
3先生がどう対応してくれるか	1	1%
4学校のリズムについていけるか	20	28%
5特別な目で見られないか	18	24%
6その他	3	4%
合計	75	100%

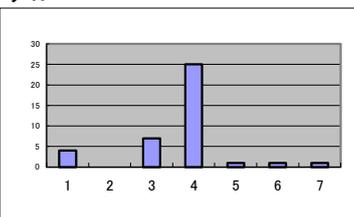


その他の内容

・行く気がないから心配してない

Q5 学校復帰についてどのように考えていますか

1学校の教室で授業を受けるつもりである	4	10%
2はじめは保健室・別室登校などから始めたい	0	0%
3イオに通いながら学校復帰をめざしたい	7	16%
4今は無理だがいずれ学校復帰するつもりだ	25	65%
5学校復帰はまだ考えられない	1	3%
6学校に復帰するつもりはない	1	3%
7その他	1	3%
合計	39	100%

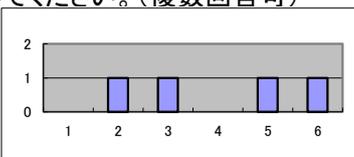


その他の内容

・考え中

Q6 Q6で「5」「6」と答えた人は、理由を選んでください。（複数回答可）

1友人関係がうまくいかないだろう	0	0%
2勉強に自信がない	1	25%
3学級の雰囲気がいやだ	1	25%
4学校のペースにはついていけないだろう	0	0%
5いじめられそうで怖い	1	25%
6その他	1	25%
合計	4	100%

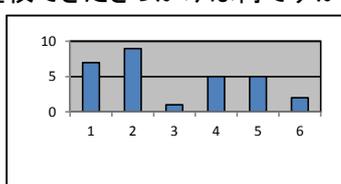


その他の内容

・理由はない

Q7 1回でも登校できた人にお聞きします。登校できたきっかけは何ですか。

1担任(学校)からの呼びかけ	7	24%
2定期・実カテストの受検	10	32%
3各種検定(英検・漢検等)の受検	1	2%
4行事	5	17%
5部活	5	17%
6その他	2	7%
合計	30	100%

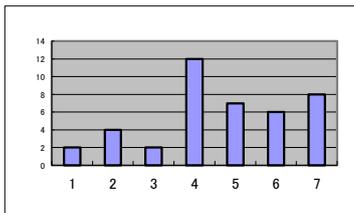


その他の内容

・親友との約束

Q8 学校に対する要望は何ですか。

1家庭訪問を増やしてほしい	2	4%
2勉強を教えてほしい	4	10%
3登校を誘いかけてほしい	2	4%
4学校の情報をこまめに教えてほしい	12	29%
5学校にもイオのような場所を作ってほしい	7	17%
6しばらくそっとしておいてほしい	6	15%
7その他	8	20%
合計	41	100%



その他の内容

・家庭訪問を別の教師に委ねてほしい

・支えてもらいたい

・今のままでよい 2

【今年度の結果】

・Q4:復帰する際、心配なことについて昨年度と違ったところは、「特別な目で見られないか」の項目が昨年度の2倍以上に増えている点である。

・Q5:91%が学校復帰の意志を示している(昨年度は87%)。「今は無理だがいずれ学校復帰するつもりだ」では高校入学を機に新しい環境で復帰したいと考えている生徒が96%をしめる。「復帰はまだ考えられない、復帰するつもりはない」と答えた生徒の割合はほぼ昨年度と同じである。

・Q6:「復帰はまだ考えられない、復帰するつもりはない」の理由として、「学校のペース」をあげた生徒が昨年度は50%であったが、今年度は0%であった。一方、昨年度0%であった「勉強に自信がない」は25%であった。

・「そっとしておいてほしい」と「その他」の生徒は、昨年度とほぼ同じ数値である。

【今後の課題】

・学校復帰を希望している生徒へ勉強面での支援をさらに充実させていきたい。また、相談タイムやスクールカウンセラーとの面談などを活用することによって精神面でのケアを図りたい。また、「高校入学を機に復帰」と答えている生徒が多い点から、学校側には「修学旅行」、「校外学習」などの何らかの「きっかけ」を多く作ってもらうよう働きかけ、中学校1、2年生での早めの学校復帰を目指したい。

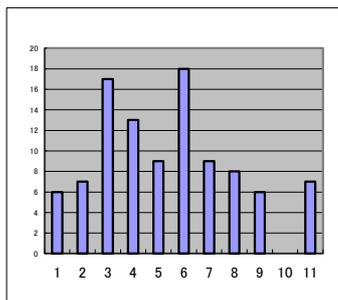
・「学校復帰は考えていない」生徒であっても学校のことを気にかけて、情報を得たいと思っている。根気強い情報提供などで、生徒との関係を保ち続けることが信頼関係を育て、登校の意欲や改善に結びついて行くと思われる。

(2) 保護者のアンケート結果

子どもの変容

Q1スペース・イオに入所してから子どもさんの変化はありましたか？当てはまるものを選んでください。(複数回答可)

1生活習慣が改善された	6	6%
2家族との会話が 많아 なった	7	7%
3表情が明るくなった	17	17%
4友人の話をするようになった	13	13%
5学校のことを話題にするようになった	9	9%
6外出することが 많아 なった	18	18%
7家族以外の人も会うようになった	9	9%
8学校の先生と会う時間が 많아 なった	8	8%
9あまり変化はない	6	6%
10マイナスの変化の方が多い	0	0%
11その他	7	7%
合計	100	100%



その他の内容

- ・学習のことを話すようになった
- ・自分に自信がもてた
- ・兄弟げんかが減った
- ・学習意欲が出た
- ・校長室へ登校できるようになった
- ・メールで会話するようになった
- ・家庭学習の時間が増えた

【今年度の結果】

・昨年度と同様の傾向を示し、約94%の保護者は改善したと答えている。「その他」の内容もプラス面での記載であった。

・「あまり変化はない」と答えた場合は、保護者が学校復帰を強く希望しているなどの子どもに求めるレベルが高い場合であったりIT学習を継続して行っている状態であっても目に見える変

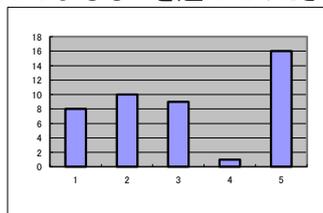
【今後の課題】

・IT学習から来所へとつなげるための働きかけの工夫が課題である。

学校とのかかわり

Q2現在の学校とのかかわりはどうですか？あてはまるものを選んでください。(複数回答可)

1週1回程度家庭訪問がある	8	18%
2月に1～2回程度家庭訪問がある	10	23%
3家庭訪問はないが電話等での連絡がある	9	20%
4家庭訪問や連絡はほとんどない	1	2%
5その他	16	37%
合計	44	100%

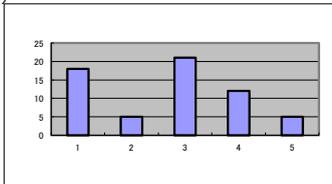


その他の内容

- ・学校以外のところでの面談
- ・学校で面談 ・部活
- ・保護者学校訪問
- ・必要時電話
- ・毎日登校している
- ・テストの時登校

Q3学校からの誘いかけはありますか？(複数回答可)

1行事やテストなどへの誘いかけがある	18	30%
2保健室や相談室への登校の誘いかけがある	5	8%
3三者面談や進路相談などへの誘いかけがある	21	34%
4学校からの誘いかけはほとんどない	12	20%
5その他	5	8%
合計	61	100%



その他の内容

- ・登校できるようになる前は熱心に誘ってくれていた
- ・本人の負担を考えた誘い方
- ・用事があるときのみ

【今年度の結果】

・「その他」を含めるとほぼ90%の児童生徒に、学校側が何らかの誘いかけを行い、保護者も在籍校とのかかわりを意識し、受け止めている。

・「学校からの誘いかけはほとんどない」と答えたケースでも、テストの誘いかけや必要に応じてのかかわりはあった。

【今後の課題】

・生徒のニーズに合った支援ができるように、担任や教科担任、相談担当、生徒指導、スクールカウンセラーなどが一堂に会して話し合う場をもつような工夫。

・中卒者の場合は、中学校卒業と同時に日常的な支援がなくなってしまうが、保護者側から在籍校に積極的にかかわり、相談や情報提供を求めていくことで、進路などの本人にとって必要な情報が入るようだ。そうしないと、なかなか進学に結びつかず家庭にいる状態が長引くことになると思われる。